カタログハウスの本

仰天珍道具事典 PART 2

ほとんど実用にならない暮しの道具

日本珍道具学会 編



カタログハウス



珍道具は奥が深い、立派ですよ。このくだらなさがエラい！ 道具自体もおもしろいけど、これを考え出した人もおもしろいよね。だいたい発明品って、横着者がつくるけど、どういう考えで思いついたのか聞いてみたいよ。
（所ジョージさん／PART1より）

カタログハウスの本

仰天 珍道具事典 PART 2

ほとんど実用にならない暮しの道具

日本珍道具学会 編



カタログハウス

カタログハウスの本

仰天 珍道具事典 PART 2

日本珍道具学会 編

珍道具時代がやってきた！



カタログハウス

ISBN4-905943-02-7 C0076 P980E

定価980円（本体951円）



漫画とも共通するドタバタアイディアのいい例が「知恵の輪式自転車錠」。こういうものは、考えた人の性格がうかがわれて、ユーモラスです。「猫舌用カバー」なんかも、グルメに対するアンチテーゼになっていて、珍道具の奥深さを感じさせますね。（黒鉄ヒロシさん）

仰天珍道具事典 PART 2

日本珍道具学会 編

カタログハウスの本

カタログハウスの本

仰天 珍道具事典 PART 2

日本珍道具学会 編

カタログハウスの本

仰天珍道具事典 PART 2

日本珍道具学会 編

カタログハウスの本

仰天 珍道具事典

PART 2 目次

喫煙

珍道具トークライブ

バス用品

掃除道具

はきもの

食器

珍道具トークライブ

農業・園芸

高所用具

防虫

■編集スタッフ
高橋　章
宮城健太・青野　聡・松木俊裕
谷合純子・吹留秀行・亀井敏江
鈴木治美・石高明子・秋山みゆき

■デザイン
下村啓介
原　成子・飯塚千夏子

■カメラ
刑部友康

ここに掲載された珍道具は、『通販生活』'85年23号から'92年114号に発表された作品に新作を加えたものです。

協力・ユーモア発明クラブ　☎03-3371-8811　／珍道具発案者の敬称は略しました。



珍道具宣言

頭を空白にすれば、珍道具の アイディアがつぎつぎ浮かんでくる。

日本珍道具学会　会長　川上賢司

珍案、愚案の続出で、抱腹絶倒、大笑いの珍道具。パート1に引き続き、パート2をごらんいただこう。

珍道具の珍道具たるゆえんは、パート1のまえがきか、巻末の珍道具十箇条をお読みいただきたい。というのも、これを頭に入れておかないと、おもしろさが半減してしまう。これでは、せっかくお金をだして買っていただいたこの本がもったいない。

はてさてこの珍道具、新しい発明に変わりはないけれど、そんじょそこらのアイディア商品とはわけがちがう。これは便利だな、これ使いたいな、と思うようなものがいっぱいあるが、いざ使ってみると、それはもうたいへんなことになってしまうものばかり。ゆめゆめ、じっさいに使ってみようなどというだいそれたことを考えてはいけない。

だから、珍道具で金儲けをしよう、実用新案をとってひと儲けしようなどというのはもってのほか。それは、純粋で神聖な珍道具の貴族性を汚すことになってしまう。もっとも、ほとんど実用にならないのが珍道具であるから、どう間違っても実用新案がとれるとは思えないが。

いずれにせよ、一般の発明品は実用新案や特許をとって、ことばは悪いがひと儲けしようというのが大きな目的。ところがこの珍道具、アイディア商品やパーティーグッズ、ユーモア商品などとは、まったく逆方向の考え方。どんなに頭をひねって、どんなにすばらしいアイディアをだしても、一銭にもならない。しかも、それを承知で汗水流そうというのだから、こんな馬鹿なはなしはない。では、なぜそんなことに一生懸命になるのか、というところがよくわからない。

ただ、利害や損得ばかりが渦巻く俗世から離れて、天真らんまん、無欲で純粋無垢な世界に遊ぶのが楽しいことだけはたしか。



川上賢司
日本珍道具学会　会長

昭和21年、奈良県生まれ。シナリオライター、イベントプランナー、雑誌編集などに携るマルチ人間。趣味のラジコン飛行機をつくる技術を生かして、珍道具のおもしろ世界にのめり込む。



だから、珍道具はなにものにも拘束されない、自由なものでないといけない。まずは、頭のなかを空白にしてしまおう。そして、古くさい常識や優等生的な思い込みから頭を解き放ってみよう。これができればしめたもの。珍道具は年齢性別を問わず、だれにでも考えられるのだ。とくにヤワラカ頭である必要なんぞまったくない。真空のようになった空白頭に、つぎつぎとアイディアが浮かんでくるにちがいない。

それまで何気なく使っていたコーヒーカップひとつ、お茶わんひとつが、まったく新しい道具に見えてくるだろう。雨の日にさした傘、風呂場を洗うとき手にしたタワシから、新しいアイディアが生まれてくるだろう。大げさにいえば、これはいまだかつてない人間と道具の関係、新しい文化かもしれない。

まあしかし、珍道具のうんちくはこのくらいにしておいて、ここに集合した珍作、駄作、傑作の数々をごらんいただこう。生きていれば、いろいろ問題が起きるのはあたりまえ。しかし、人生くよくよ悩んでみたところではじまらない。ここはひとつ、大声で笑ってみようではないか。



読書

右ページ本

無精者にうれしい、寝ころび読書専用本。

横になって本を読むとき困るのは、左のページが読みづらいこと。右ページはちょうどいい眼の高さなのでいいけれど、左ページになると本を持ち上げたり、首をひねったりとたいへん。

ところがこの本は、右ページのつづきが、つぎにめくった右ページにある。つまり、右ページだけ読んでいけば、話がつながるという仕組み。最後まで読み進んだら本を天地さかさまにひっくり返せばいい。

ただし、起きあがって読んだり、寝返りを打って反対向きになってしまうと、これほど読みにくい本はない。（案・富嶋一美）



水上読書浮き袋



水のなかにはいっていけば、のんびりと読書が楽しめる。



たまには水の上で読書をしてみたい、とかねてから夢見ていた人にぴったりなのが、この水上読書浮き袋。

胸まであるゴム製長靴に、強力な浮き輪がふたつついている。これさえあれば、スーツを着たまま水のなかにはいり、思うぞんぶん読書にいそしむことができる。もちろん、防水は完璧。大きな横波がきて、頭からしぶきをかぶらないかぎり濡れる心配はない。水上での安定性もバツグン。歩いて川を渡るといった水上散歩も楽しめる。足場の悪いところは、浮いたまま移動すればよい。あぐらをかいてプカプカ漂うことだっておちゃのこさいさいだ。また、空気を抜くとコンパクトにたためるので、持ち運びにも便利だ。



これを持って近くの池や川へいき、ジャブジャブ水のなかにはいっていくだけで、自分だけの即席読書室ができる。画板を首にかけていけば、水上書斎に早変わりというわけだ。水面を揺らすさざ波に身をまかせば、おのずと意識は集中し、リラックス状態となる。電車のなかでの読書が意外とはかどることを思い出していただきたい。適度な揺れは、脳波と波調が合って潜在能力が引き出されるという。つまり、読書をするには、最高の環境をつくりだすことができるのだ。もちろん、ストレスも解消されること間違いなし。

こんないいもの見のがす手はない。とくに職場に常備しておけば、思わぬ威力を発揮する。お昼休みなどちょっとあいた時間に活用すれば、だれにもじゃまされずに読書ができる。むずかしい資料もスイスイ頭にはいるはず。参加者の人数ぶんこれを用意して、水上で会議をすれば、ポンポン企画が飛び出してくるかも。とても有益な浮き袋。企画会社の方、採用を検討してみてはどうだろう？

（案・石黒敬章）

横寝用めがね





めがね使用者が泣いて喜ぶ!?　めがねをかけたまま横寝ができる。

どうしてこれがいままでなかったのか、と思うほど画期的かつ革命的アイディア。めがねをかけている人なら、きっとうなずくはずだ。めがね使用者共通の悩みを解消してくれるのだから。

いままで、めがねの欠点は、寝ころんでテレビを見ることができないことにあった。めがねのツルがじゃまで腕枕はしにくいし、こめかみにあたって痛いしと最悪。とくに乱視の場合、ちょっとでもフレームがずれると、テレビなどが見にくいことこのうえない。そこで、この横寝用めがね。めがねのツルがないから、腕枕だって寝返りだって思いのままだ。こめかみが痛くなることもない。

構造はいたって簡単。ツルをはずしためがねに、フレームを取りつけただけ。これで寝ころんでテレビの極楽が味わえる。遠視ぎみの方の読書にもピッタリ。この本の11ページにある「右ページ本」との併用をぜひおすすめしたい。

じっさいに試してみたところ、心配だったフレームのズレもなく快適そのもの。見ばえは悪いけれど、とても実用的。度付きのサングラスにすれば若者にウケるかも。まあ、いまのところこのまま街に出たりすると笑い物になることは避けられない。（案・海野文夫）

カー用品

携帯駐車場



スペースさえあれば、どこにでも路上駐車ができる。

自動車で出かけたはいいけれど、駐車スペースがあいてなくて、街中をぐるぐる。とくに繁華街近辺は一方通行地獄だし、渋滞、商用トラック、違法駐車、ブラブラ歩きの歩行者などにはばまれて、駐車スペースを見つける前にヘトヘト、なんて経験はドライバーならみんなあるはず。かといって、取り締まりが日増しに厳しくなるいっぽうの違法駐車はしたくない。

そんなとき、この携帯駐車場を持っていれば、あっというまに立派な駐車スペースをつくることができる。使い方は簡単。適当な路上スペースに自動車を止めて、これをまわりに敷くだけ。すると、どこから見てもほんものと寸分変わらない駐車スペースが出現するという次第。ひとりで設置した場合の所要時間約2分と、まったく手間もかからない。





材質は厚口の軟質ビニール製。雨や汚れにも強い。クルクルまるめればコンパクトになり、自動車のトランクに入れておける。色は、道路に塗布された白線とほぼ同じ。大きさも、縦517cm×横133cm×幅15・5cmと道路交通法に明記された規格サイズを採用。裏面は、ゴムコーティングなので、少々の風雨にもはがれたりシワになったりする心配もない。

ただし、駐車中に、この携帯駐車場に目をつけた不届き者に持ち去られ、悪用されないよう注意が必要。

駐車場不足に泣くドライバーの偉大な知恵から生まれた逸品だけど、この写真の撮影中、ミニパトの婦警さんに見つかって叱られてしまった。ほんとうに便利なんだけど、じっさいに使うには、それなりの覚悟がいりそうだ。婦警さん、ゴメンナサイ!!(案・吉田昇)



レッカー移動防止チェーン

これさえあれば、レッカー移動だけはされない。

駐車違反をして、自動車をレッカーで持っていかれたときの悔しさは、経験したものでないとわからない。違法駐車をしたのだから、非はこちらにあるのだけど、なんとなく釈然としない。罰金も、1万円の反則金に加え、レッカー代と自動車保管料が強制的に請求される。これが2万円以上とお安くない。

駐車違反はしかたがないとしても、レッカー移動だけは阻止したい、と逆恨みエネルギーで考え出されたのが、このレッカー移動防止チェーン。なんと、ガードレールに自動車をつないでしまうという大胆不敵なアイディアだ。自動車に取りつけられた頑丈なリングは、強力なリベットでしっかり固定され、太いチェーンは大きな鍵でロックするようになっている。ここまですれば、レッカー移動だけはされないだろう。取りつけや取りはずしが手間だけど、レッカーされることを思えばなんのそのだ。念のために警察に問い合わせてみると、「それは、とんでもない悪質な行為。チェーンを切って持ってゆく」と先様はプンプン。だから、くれぐれもこんな悪質な行為はしないように。見つかったら、お説教だけでは許してくれないかもしれないよ。（案・川上賢司）





嫌煙者用マスク





嫌煙家と愛煙家が同乗しても、楽しいドライブが約束される。

狭い車内の空気は、たいへん汚れやすい。とくに愛煙家が同乗した場合など、タバコを吸わない人にとってはまさに生き地獄。窓を開ければいいのだけれど、暑い夏や寒い冬などは、できるだけ窓は開けたくない。かといって、けむたいタバコをがまんするのもつらい。そんなとき、このマスクがあれば悩みは解決、間違いなく楽しいドライブができるはず。

マナーとしては、喫煙者がマスクをつけて車内の空気を汚さないようにすべきだけれど、火の処理や副流煙（タバコから直接出る煙）の対処法がむずかしく、簡単にはいかない。そこで、これ。イヤな煙を吸うよりは、と考えだされた嫌煙者自己防衛マスクだ。これをつけているかぎり、車内の空気を吸うことはない。

マスク部は気密性が高いので、すき間から汚れた空気が侵入することもない。柔軟性の高いホースで車外と直結することにより、窓を閉めたまま車外の新鮮な空気が吸えるというわけ。ただし、外気がきれいなら快適だけど、渋滞時には排気ガスを多量に吸いこんでしまうので要注意。（案・加藤孝）

鍵の持ち歩き不要。自転車ドロボウも首をかしげる。

知恵の輪を応用した自転車用安全錠だ。後輪のスポークに絡みついたら最後、知恵の輪のはずし方を知らない人には、まず自転車を動かすことができない。ふつうの自転車錠だと、ドライバー1本で簡単に取りはずされてしまう。鍵を忘れたり失くしたりすれば、なすすべもなく、ただただボーゼンとするしかない。けれども、この知恵の輪式自転車錠なら、万が一はずし方を忘れても、時間さえかければ必ずはずすことができる。

ステンレス製なので錆びる心配はないし、強度も保障つき。少々ひねっても、ゆがむことはない。

しかし、たとえ自転車は盗まれなくても、ちょっと手癖の悪いパズルマニアにこの知恵の輪だけ持っていかれるかもしれないので、ずっと監視していたほうがいいかも。

(案・佐々木和彦)



知恵の輪式自転車錠



三つ編み用ヘルメット

ロングヘア対応タイプだから、もう髪型を気にせずかぶれる。

おしゃれな女性ライダーたち共通の悩みがヘルメット。とてもきゅうくつなので、髪型を気にしていたらかぶれない。とくにロングヘアの場合、髪をまとめてかぶるまでがひと苦労。三つ編みやポニーテールになると、もっとたいへんだ。ヘルメットは、オートバイ乗車時に絶対必要なもの。それだけに悩みはかなり深刻なのだ。

そんな悩める女性ライダーのために考えられたのがこれ。頭頂部から後頭部にかけて合計4ヵ所、穴をあけてある。ここから髪の毛を外に出せば、ヘルメットをかぶってもボリュームのある髪型が保てるという次第。これなら、バイクに乗るためにわざわざ髪型を変える必要もなくなる。また、通気性もバツグンなので夏の暑さもへっちゃらだ。それに、もっと大きな穴を開ければ、アップした髪型でも大丈夫。

ただ、雨の日はズブ濡れになるので使用しないほうが無難。なお、強度に少々不安があり、事故時の頭部保護については保障しかねるので、悪しからず。（案・清水秀子）





家事
なんでもぶら下げエプロン





台所の魔術師、料理の達人と呼ばれたいならこれしかない。

お料理に使用する道具って意外と多い。フライ返し、菜ばし、計量カップなどなど。料理は時間との勝負だから、おコゲをつくらないためにも手早く道具を取り出したい。でも、いざ必要となると、手もとになかったりしてけっこう焦る。そこで考案されたのがこれ、究極のシステムエプロンだ。

素材は厚口のビニール加工されたナイロン。もちろん防水で、胸あて下部にステンレス製のフックが8個ついている。ここに料理に必要な道具をぶら下げるというわけ。フックは頑丈だから、よく使う道具をみんなぶら下げても大丈夫。これなら、台所のどこに立っていても必要なものにすぐ手が届く。お料理も楽になるはず。

野菜をいためながら、天ぷらの火のとおり具合を見たい、チャーハンをかきまぜながら、大根をおろす、なんてときにすばやく対応。料理の達人と呼ばれることは間違いない。

手あたりしだいにぶら下げれば、それだけ便利になるけれど、そのぶん重さで肩がこるし、ガチャガチャして動きにくいのがちょっとした欠点か。

（案・三好丸世）



タワシ・スポンジ合体炊事手袋



大量の食器洗いに威力を発揮。

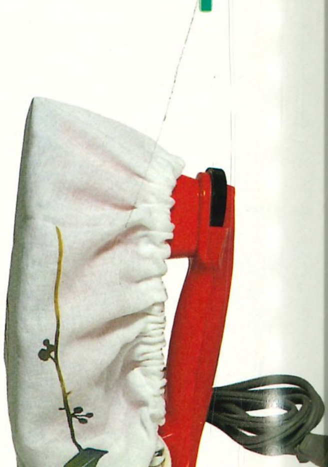
　食器を洗うとき、いちいちタワシを持ったり、スポンジで洗ったりとたいへん。それなら、みんなひとつにしてしまえ！　というのがこの手袋。これをはめれば、どんな洗いものでもおまかせだ。
　少々食器が持ちづらいので、落としたり、グラスをタワシでキズつけたりしても気にしない覚悟さえあれば、これほど便利なものはない。（案・西平清美／石原樋出子）



あて布不要アイロンカバー

めんどうな日本てぬぐいを一体化。

　日本てぬぐいでつくったアイロンカバー。これさえあれば、あのめんどうなあて布をいちいちあてる必要がなくなるし、不注意で大切な洋服を焦がす心配もない。脇や股など複雑な部分もアイロンの先端が使えて便利だ。
　ただし、カバーの同じ部分が熱くなるので、アイロンの温度をう～んと低くしておかないとカバーが焦げてしまう。そのため、温度が低すぎてアイロンがけに倍以上の時間がかかるのが、唯一の欠点かもしれない。（案・木村美和子）



主婦用家事ベルト

腰に巻けば気分がひきしまる。テキパキ主婦の必需品。

煩雑な家事を能率よくこなしたい！と考案されたのがこのベルト。一見しておわかりのとおり、電気工事屋さんが使っている作業用ベルトの発展応用タイプだ。これに、家事に必要な道具をみんな吊り下げてしまう。これさえ腰に巻けば、ムダなく作業ができるというもの。家事専用設計で、あらゆる家事用道具が装着可能。もちろん、防水加工ずみでフリーサイズ。道具ごとに吊るす場所を決めておけば、いちいち確認しなくてもサッと取り出せる。家事道具がひとつにまとまっているので、ハタキはどこに置いたかな、と家中探しまわることもなく、収納場所の心配もない。親子電話の子機も吊るせるから、電話のたびにいちいち駆けまわらなくてすむ。

ただし、あまり長いものや重いもの、それに道具の吊るしすぎは、動作がにぶくなるしかえって非能率的。それに、使ったあと、道具についたホコリや水滴に注意しないと、部屋中に汚れをまき散らすことになる。また、下半身の運動になるかわり、足腰に筋肉がつく。（案・藤沢充子）







調理

漬け物サンダル

製造法さえ黙っていれば、おすそわけもどうどうとできる。

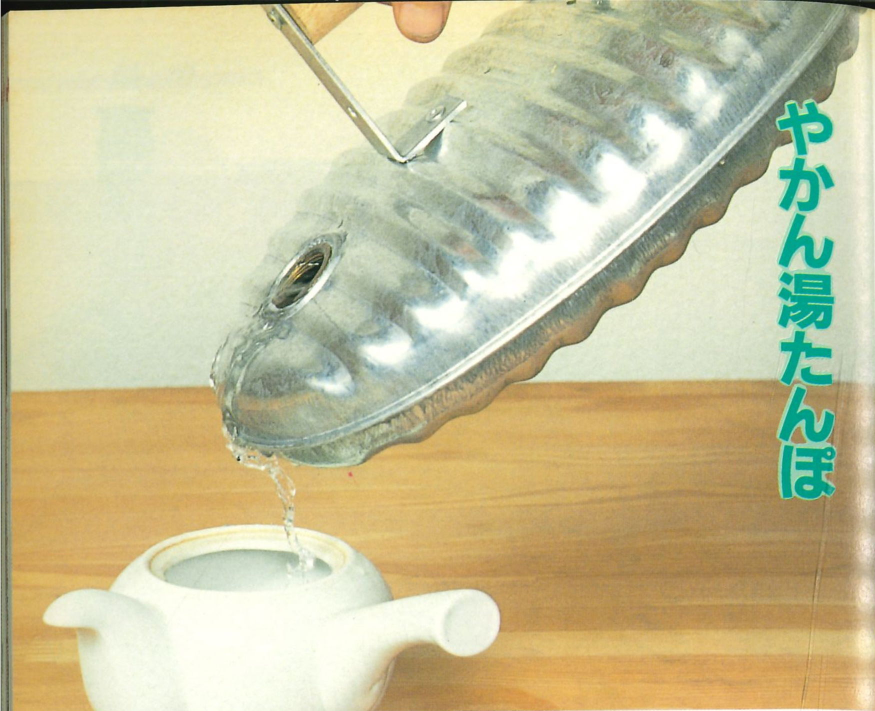
買い物で外を歩くあいだも、せっかくの体重を利用しない手はない、ということで考えられたのがこのサンダル。容器のなかにキュウリやナス、ダイコンなどを米ヌカといっしょに入れておくだけで、歩けば歩くほどおいし～いお漬け物ができる。

容器はポリプロピレン製で容量は4リットル。ダイコンなら軽く2本は漬けられる。もちろん、押しブタと外ブタ（サンダル部）の2重構造で、安全設計になっている。底部はスニーカー用のソフトトラバーを使用しているので、防水性と耐久性にすぐれ、しかも滑りにくい。

食べ物を足で踏むなんてちょっと抵抗があるけれど、これもおいしいお漬け物をいただくため。うどんやワインも足でこねたりつぶしたりしてつくるのだから、そこは納得してほしい。一歩一歩体重をかけて歩けば、微妙な体重移動で漬けるものを押さえつけて、よくこなれた繊細なお味にできあがる。これをはいてお買い物にでかけるだけで、1時間漬けができてしまう。難点は、片足で5、6キロという鉄ゲタなみの重さなので、そうとうな体力とうまく歩くための訓練が少し必要なこと。

（案・木原健次）





やかん湯たんぽ

年中活躍する働き者。2役こなす器用道具。

湯たんぽの活躍期間は、冬場のしかも夜間にかぎられる。それ以外はじゃまにされるだけ。ともすれば物置きのなかで忘れ去られた存在となってしまう。

これでは湯たんぽに申し訳ないと考え出されたのが、このやかん湯たんぽ。取っ手がついているため、湯たんぽとして使わないときはやかんになる。また、寝る前に水や日本酒を入れておけば、つぎの朝には、ひとはだに温まったお湯や朝酒がおいしくいただける。ただし、冬の寒い夜、冷たい水のはいった湯たんぽに足をくっつけるのにちょっと覚悟がいる。また、やかんとして使っても、注ぎ口がないのでヘタに注ぐとボタボタとお湯がこぼれるのが難点だ。（案・藤沢隆信）



裏返しフライパン





あざやかな手並みでひっくり返す。使ったその日からプロのコックさん。

プロのコックさんが、あざやかなお手並みでごはんや野菜をひっくり返すテクニック。まねしてコンロの上にごはんをまき散らした経験はだれにもあるはず。この技術、べつにこれみよがしに披露しているのではない。パリッと仕上げるため、短時間でまんべんなく火を通す必要があってのこと。フライパンのへりを使って押して引くなんて聞いても、なかなかできるものじゃない。

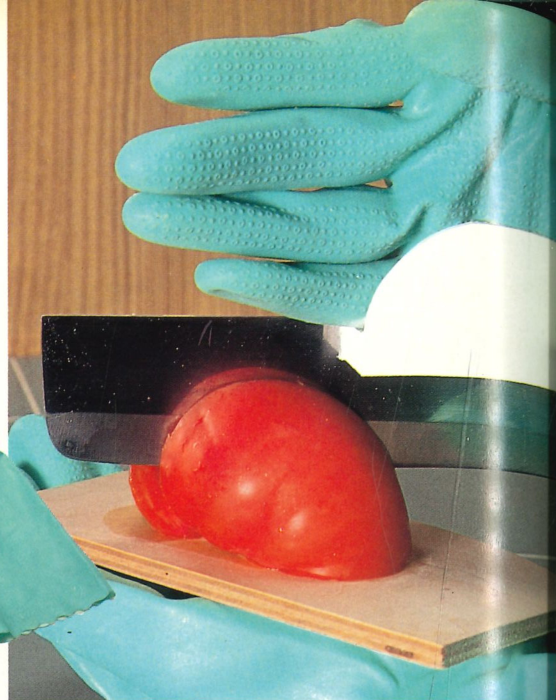
そこをなんとか、修行をせずに習得する方法はないものかと考え出されたのがこのフライパン。ご覧のとおり、フライパンの上部にバックネット型の返りブタがついている。このフタに沿って、または衝突して材料がフライパンに落ちてくれる。実質的にひっくり返った状態になるというわけ。フタの内側はテフロン加工してあるので、焦げつきの心配もない。

これさえあれば、新米主婦でもプロなみのひっくり返しがすぐにできる。ただし、ふつうのフライパンより1.5倍ほどの重さなので、持ち上げるのに苦労するのが、難点といえば難点かもしれない。

（案・古久根純子）

手包丁・手まな板







どんなに料理下手な人でも、細かい作業ができるようになる。

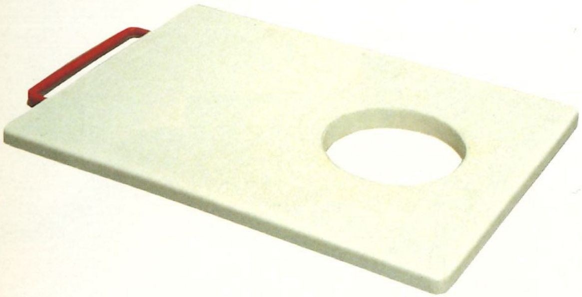
慣れるとまるで6本目の指のように自在にあやつれる手包丁と、皮膚感覚で作業できる手まな板のセット。道具がからだの一部になれば、むずかしい作業も安全確実にできるだろうということから考案されたのがこれ。

手包丁は、刃わたり約16cmのステンレス包丁がゴム手袋の右手小指横に装着されたもので、ちょうど空手チョップをするように使用する。これで、包丁のブレを防止し、指にかかる圧力を分散させることができる。

手まな板は、15cm×8cm×厚さ1cmで木製。ただし、ほかの作業をするときは不便このうえない。それに、あまり馴染みすぎて、つい頭でも掻こうものならキズだらけになってしまうから注意が必要。（案・岩本薫）

穴あきまな板

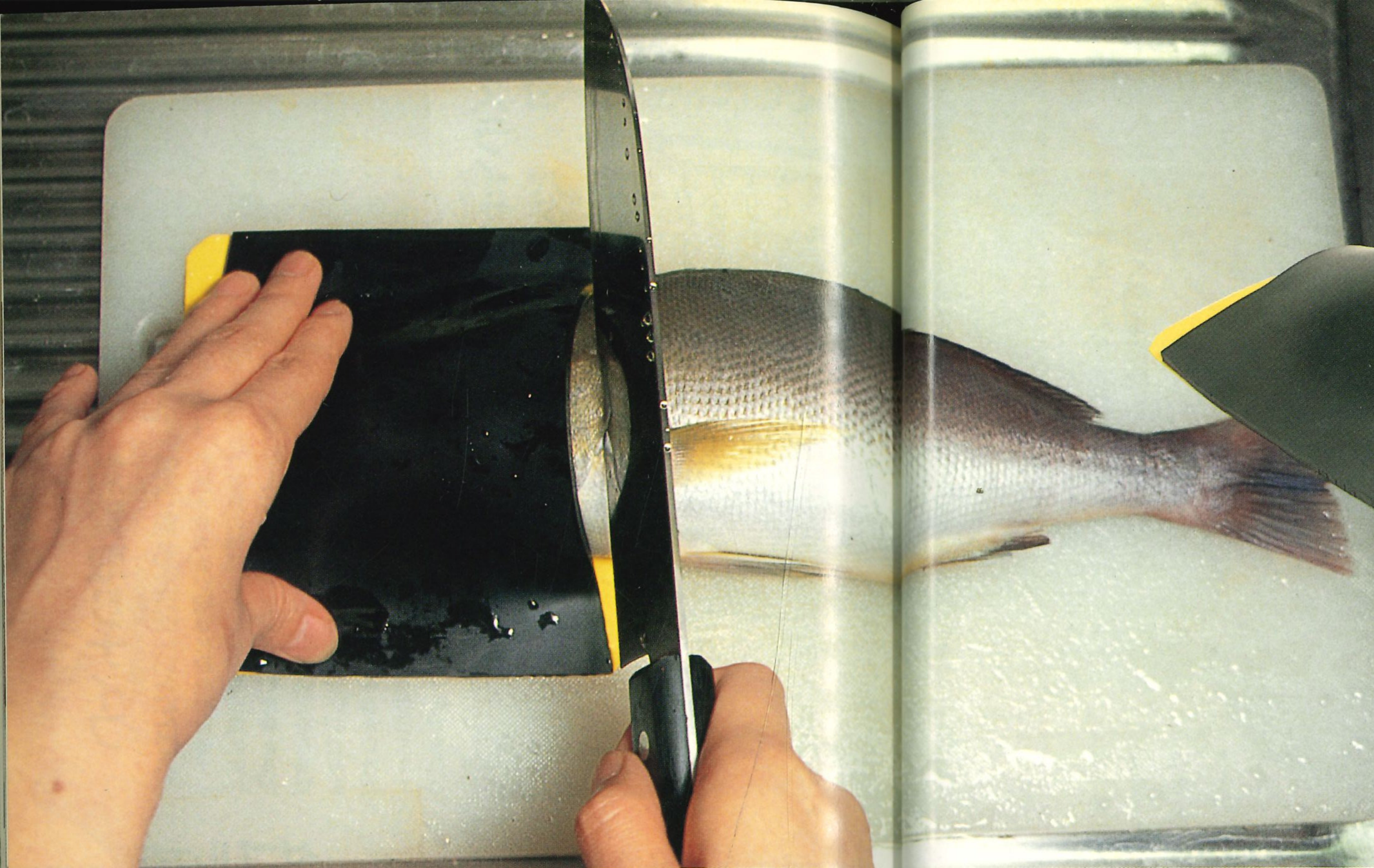


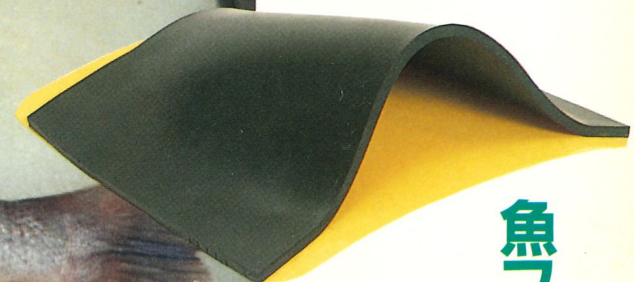


細かくきざんだお野菜だって、ムダなく簡単に移しかえられる。

　まさに、コロンブスの卵的発想のまな板。ポリエチレン製のふつうのまな板に、ま～るい穴がひとつあいている。とても使いにくそうなまな板だけど、見ると使うとでは大ちがい。穴の役目を知ると、このまな板以外考えられない！　と必ずや思うはず。

　この穴あきまな板が絶大なる威力を発揮するのは、切った野菜をナベなどに移すとき。いままでなら、手や包丁ですくいとったり、まな板をナベの上まで持っていき、斜めにしてすべり落としたりとけっこう手間がかかった。大まかなザク切りならいいけれど、玉ネギのみじん切りとなるとちょっとやっかいだ。手数はかかるし、ナベの外にこぼしてしまったりしてしまう。そこで、この穴あきまな板の登場。これならまな板をナベにのせ、穴とナベの口を合わせてサッと材料を落とすだけでOK。手間もかからず、こぼしてしまうこともない。また、ナベのなかをのぞきながら入れるので、材料を入れすぎる心配もない。時間も材料も有効に使えるアイディアものだ。これなら実用新案も取れるかも。あえて難点をいえば、切るスペースが狭いことかな。（案・松井博司）





魚フェイスカバー

魚恐怖症主婦に朗報！これで心おきなく魚がさばける。

最近、魚をさばけない主婦が増えてきた。その影響からか、魚は切り身の姿でとれるものと信じている子どもたちがいる、という笑えない話もある？　これは、子どもたちの責任ではない。スーパーの切り身しか知らないんだから、そう思うのもしかたがないような気がする。そんな子どもが増えないためにもやっぱり魚料理は、まるまる一匹をさばくことからはじめたい。

そうはいっても、あの顔がうらめしそうで、気持ち悪いとか、目

が合って怖いなんて、昔の人が聞くと怒りそうなことをいう若い主婦が多いのも事実。

ところが、このフェイスカバーさえあれば、怖いお魚の顔を見ないでお料理ができる。お魚に包丁を入れても、ギョロ目でにらまれたり、口が開いてギョッとすることもないから、新米主婦も安心だ。ゴム製なので、ヌルヌルする魚を、しっかり手で押さえられるし、とても安全。水にも強く、ザバザバ洗える。だけどこれが普及すると、黄色や赤の色とりどりのフェイスカバーをつけた魚が海で泳いでいると信じる子どもが増えるのではないかと少々不安になってくる。

（案・小寺啓子）



スライスバター

バターナイフが不用。

バターを冷蔵庫に入れるとカチカチになり、なにかと不便。でも、これならビニールをはがすだけですぐに使える。うす切りなのでトーストにのせるだけでOKだ。ただ、やわらかくなると、ビニールにへばりつく。（案・福井賢治）



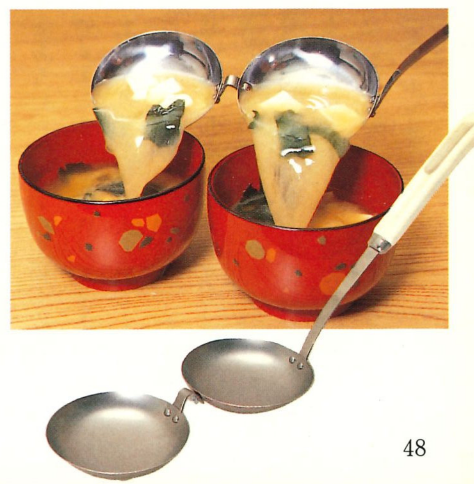
魚骨取りナイフ

焼き魚も上品にいただける。

焼き魚の骨が簡単に取り除けるナイフ。魚の胸部にこれを差し、尾に向けてしごいてやれば、きれいに骨と身が離れてくれる。もう、めんどうな骨取りに四苦八苦することもない。ただし失敗すると、骨皮まじりの身をいただくことになる。（案・武田絹子）

ダブルお玉

すくう手間が半分に省ける。



いちどにふたりぶんよそえるお玉。なにしろ、手間が半分になるのだから、便利このうえない。とくに、多人数のお客さまにお食事を用意するときに威力を発揮する。器を規則正しくならべておけば、テンポよくよそうことができる。ただし、口径の大きなおナベでないとはいらない。また、おかわりのときや奇数ぶん用意するときに少々頭を悩ますのが欠点だ。（案・宮野伴



セーフティカッター



皮むき器に機能をプラス。

野菜の皮むき器に、人差し指用のキャップをつけただけで、意外な使い方ができるようになった。野菜を切るときこれを左指にはめれば、切りキズ防止器になるのだ。指がガードされるので、指を切る心配がない。また、これにそって包丁を入れれば、均等に野菜を切ることもできる。ただ、重心が上にあるため、安定しない。慎重に切る必要がある。（案・金澤陽之助）

底口マヨネーズ

ムリなく最後まで使い切れる。

容器の底にたまったマヨネーズを絞り出すのには、けっこう苦労する。ダラダラ落ちてくるのを待つうち、つい短気になって容器はぐちゃぐちゃ。これでは食欲も失せてしまう。そこで考えられたのがこれ。容器の底にビーチボールの吹き口がついているので、底からスムースに出すことができる。これなら底にたまったマヨネーズも、スマートに使い切ることができる。ただ、底口を開けたまま、使用すると、顔がマヨネーズだらけになってしまうので、注意が必要だ。（案・古江寿紘）







反対目玉焼き器

こんな料理をだせば、大ウケまちがいなし。

まんなかが白身、まわりが黄身の不思議な目玉焼き製造器。江戸時代の料理書に反対ゆで玉子のつくり方が載っているそうだけれど、じっさいにつくるのはかなり困難だとか。けれども、この反対目玉焼きなら大丈夫だ。

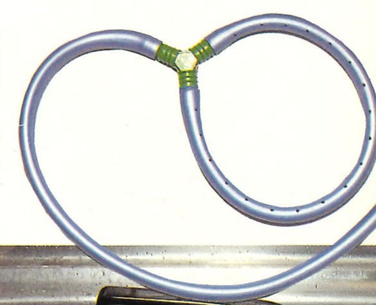
玉子を黄身と白身にわけて、内側の輪に白身、外側に黄身を入れ、固まってきたら輪を取ってできあがり。白身と黄身を同時に入れないと、焼きムラができたりコゲたりするので注意。ただし、苦労してつくったわりに、味は変わらない。(案・岡野正純)



麦茶冷やしホース

麦茶を急いで冷やしたいときは、これにかぎる。

麦茶は、沸かしたあとすぐに冷蔵庫に入れられない。へたに入れると、ほかの物が温まってしまう。そこで、少しでも早くさまそうと発明されたのがこれ。耐熱ホースに放水孔が均等にあけられているので、水を通すとシャワーになる。これで麦茶のはいった熱いやかんを急速に冷却できるというわけ。水道料金がちょっと心配だけど、冷たい麦茶に確実に早くありつける。(案・田渕尚子)









両面玉子焼き器

熟練主婦も思わず土下座！おいしい厚焼き玉子がすぐできる。

厚焼き玉子をつくるのは、とてもたいへん。手間がかかるし、なんといっても火加減がむずかしい。でも、これさえあれば、簡単につくれる。玉子を溶いて弱火にかけるだけ。フタつきなので、じんわり蒸れ、内部はやわらか、まわりはカリッと焼けていく。片面が、ある程度焼けたら、焼き器をひっくり返して反対側を焼けば、理想的玉子焼きがだれでもできる。(案・坂口笑子)



両面焼きヒーター

上下同時加熱で、焼き時間を短縮。

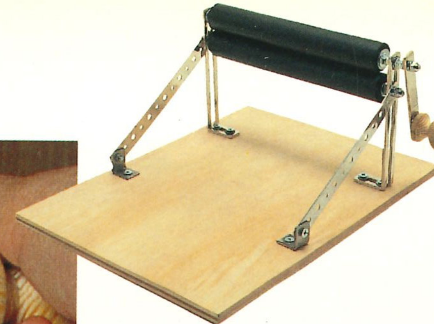
ホットケーキやお好み焼きを焼くとき、なかなか両面が焼きあがらなくて、イライラしながら待つのはつらいもの。けれども、このヒーターなら、上下が同時に加熱されるので、すばやく焼きあげられる。両面いっぺんに焼けるから、いちいちひっくり返す手間もかからない。構造は、いたって単純だけど、熱効率がよく、焼けるのが早いので、つきっきりで焼け具合をみていないと焼けすぎる。うっかりしていると黒コゲ確実の強力ヒーターだ。(案・小瀬淳子)





レトルト絞り器

クルクルするだけで、最後の一滴まで逃がしません。



レトルト食品はおいしくなったと愛好者も増えてきた。とても便利なものだけど、パックを開けて、器に移すまでがたいへん。熱くて袋のはしをつまんでいるのがやっとだし、パックをさかさまにしても中身は全部出てこない。スプーンでかき出そうとするとスプーンの柄まで汚れてしまう。

なんとかスマートにいただく方法はないものかと考え出されたのが、この絞り器。構造は単純なもの。昔なつかしい洗濯機についていた洗濯物絞り器の応用版だ。使い方は、パックのはしをローラーのあいだに差しこみ、ハンドルをグルグルまわすだけ。これで最後の一滴までいただける。これは、珍道具の範ちゅうからはずれるのでは？と思われるほど、かなり実用的な道具だ。レトルト食品のメーカーさん、景品用に製品化してみてはいかが？（案・花等佐江子）



多忙な自然食派の救世主。3分の1の時間でかつお節が削れる。

専業主婦の減少と化学調味料の出現で、かつお節削り器の保有台数が激減したと聞いたことがある。化学調味料は使いたくない、という家庭でも、パック入りかつお節を使う家庭は多い。忙しい現代社会では、かつお節を削るヒマなぞないのかもしれない。そこで三面かつお節削り器。強力なスプリングで押しつけられたカンナのあいだにかつお節を入れ、前後させるだけで、ふつうの削り器の3倍の量が削れる。刃の調節をすれば、花がつおだってダシ用だって思いのままだ。

とかく運動不足になりがちな主婦にとって、かつお節削りは手ごろな運動。その点この削り器なら、上半身のシェイプアップも兼ねられる。ただ、どんどん削っていって、かつお節が小さくなったとき、どうやって削るかがちょっと問題かもしれない。（案・下村一三）



ほんの少しだけど削りたてがほしい。そんなわがままもかなってしまう。

かつお節は削りたてがおいしいに決まっている。だけど、ほんの少ししか使わないのに、いちいち削るのはめんどう。だから、ついついパックのかつお節を使ってしまう。

でも、こんなえんぴつ形のかつお節があったら、必要なぶんだけ鉛筆削りで削って使うことができる。鉛筆削りは電動でも手動でも大丈夫。小さな鉛筆削りだったら、おべんとうにも持っていける。

じっさいにやってみたら、ちゃんと削れた。ぜったいこれ、いいと思う。ただ、えんぴつ形かつお節が商品化されない以上、えんぴつ形かつお節を自作する必要がある。これはなみの努力ではすまないことをつけ加えておこう。（案・岡本円）





指切り防止左手

アイディア次第で使い方が広がる。イヤな作業から解放される。

これさえ使えば、どんなにお料理が下手な人でもぜったいに指を切らない、という料理用の左手。一見、グロテスクだけれど、使い慣れるとあまりに重宝で手放すことができなくなる。本体は、人間の手そっくりの柔軟性と弾力性に富んだシリコンゴムでできている。そのため、軽くしなる程度の弾力性を得ることに成功した。これにより、急激な加重にも折れることはない。また、軽くつまむことで、野菜などを押さえることができるので、野菜が安定し、指先を切るようなことはぜったいにない。

この料理用左手で材料を押さえ、右手に持った包丁でトントンと切れば、刃物の恐怖感もなく、軽快なリズムでお料理ができるというもの。とくに、大根の薄切りやキュウリの輪切りなどに威力を発揮する。また、肉や魚など生ものの下ごしらえや、ネギ、ニラなどにおいの移る野菜を扱うときにも重宝する。さらに、触りたくないぬか床をかきまわしたり、残りものや生ゴミの処理にも便利このうえない。アイディア次第で使い方はさらに広がる。ただ、にんにく、しょうがなど小さな球根系のものを押さえるには少々不向き。耐熱温度100℃なので油物、火気には注意が必要。新米の主婦や主夫の強い味方だ。

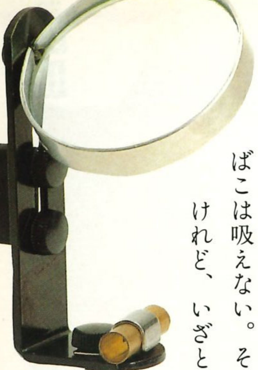
（案・手島絹代）



喫煙
ソーラーライター



太陽のありがたみを感じつつ、省エネのおいしいいっぷく。



「さていっぷく」仕事のあとに、散歩の途中に、ほっと一息のたばこのおいしいこと。嫌煙だ、禁煙だ、と世間はいうけれど、このいっぷくにはかえられない魅力がある。しかし、火がなければたばこは吸えない。そんなことみんな知ってるけれど、いざというときマッチが空っぽ、ライターのガスが切れてるってよくある。でもこのソーラーライターさえ持っていれば大丈夫。太陽光線さえあれば、いつでもどこでもたばこが吸える。ガス・石油などの既存のエネルギーを使わないですむという、エコロジカルな省エネライターだ。

ただし欠点は、夜、室内、曇りや雨の日は吸えないこと、火がつくまでにちょっと時間がかかること。しかしそれも考えようだ。現代人が忘れかけていたエネルギーの大切さ、太陽のありがたさを再確認するのにちょうどいい機会かもしれない。しかも、子供といっしょに理科の実験だってできる。それに、火をつけるのがめんどうなので、結果的に節煙にもなりそう。（案・川上賢司）

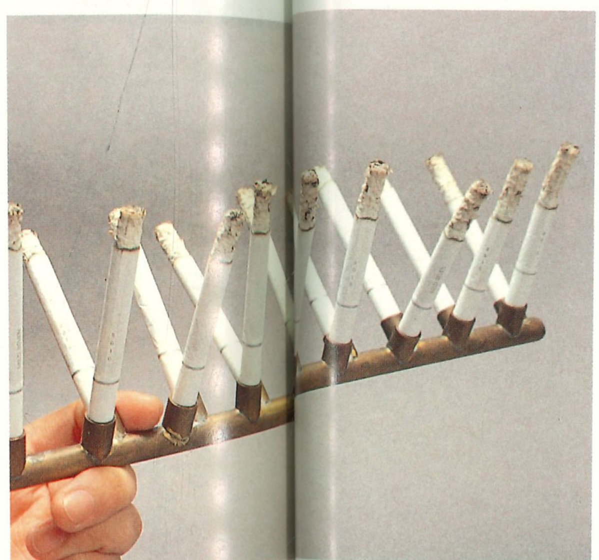
灰皿つきパイプ



灰を散らかさず どこでもたばこが吸える。

いまやオフィスやパブリックスペースは禁煙がふつう。それにともなって灰皿のない場所が急増。愛煙家としては不便きわまりない。だったら、灰皿を持って外出すればいい。けれども、すぐに忘れて出かけそう。それでは、いっそのことパイプに灰皿をつけてしまえばいいじゃないか、ってことで考えだされたのがこれ。折り畳み式で携帯に便利、しかも周囲にたばこの灰を散らすこともない。ただし、くしゃみをするとたいへんだ。（案・石黒敬章）

20本キセル



味にうるさいヘビースモーカーご御用達。

時代に逆行したい、という反骨精神の持ち主におすすめしたい、ヘビースモーカー用のキセル。いっぺんに20本のたばこが吸えるから、一日40本吸う人は一日2回吸えばすむので、横着スモーカーにもぴったり。また、いろいろなたばこを20種類差しこんで、ブレンドを楽しむこともできる。オリジナルの味をつくって、ぜひ知り合いにもおすすめしよう。（案・ユーモア発明クラブ）

節煙たばこ



1日60本吸っても20本ぶんにしかならない節煙たばこ。

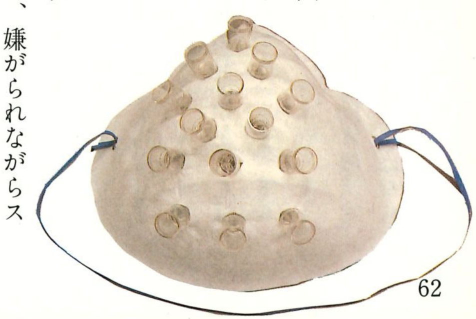
スモーカーの肩身が狭いきょうこのごろ。どうしてもたばこの量が減らないと悩んでいる人に。これなら嫌でも節煙できると考え出されたのが、フィルターがふつうのたばこの3倍の長さがあるたばこ。フィルターが長いからいままでどおり吸ってもからだにいい。3本吸って1本ぶん、1日20本吸う人なら60本吸えて、より満足。でも、それじゃ節煙にはならないか。（案・谷合純子）



ヘビースモーカー用マスク

ケチくさいことが大嫌いなスモーカーに。

知らず知らずのうちに増えていく喫煙量。子供のころ、いたずらのつもりで吸いはじめたハイライトが、いまでは一日40本…こんな経験を語れるのは、いまやオジサンと呼ばれる人だけか。会社で、喫茶店で煙たがられ、嫌がられながらスパスパ。好きなたばこ、好きなだけ吸ってどこが悪い。命知らずの愛煙家には時代の禁煙ムードなど関係ないのだ。1本ずつ吸うなんてけちくさいことはやめて、14本まとめて、とことん吸ってやる！　というわけでこんなマスクができあがった。これで発ガンの確率も14倍にアップする。（案・井上博之）



HIROSHI KUROGANE

珍道具トークライブ

漫画のアイディアそのもののドタバタ珍道具。

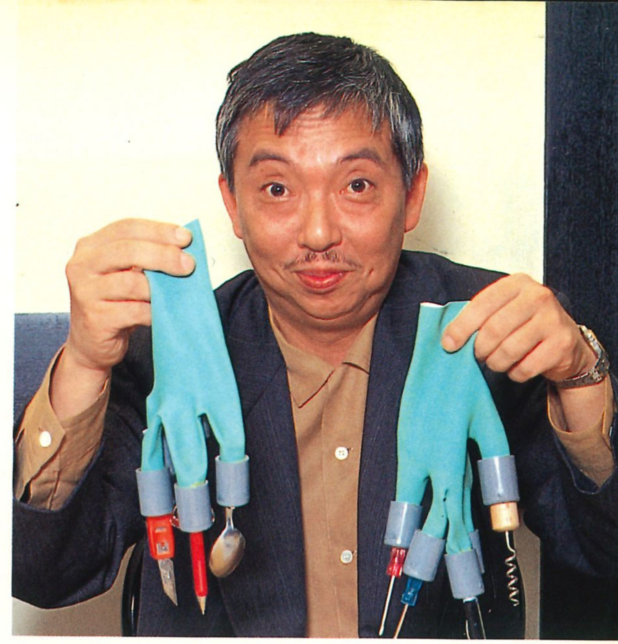


黒鉄ヒロシさん

便利さを追求する文化をぶち壊す珍道具。

いままでの珍道具を全部拝見しまして、すごくおもしろかったのは、漫画のアイディアとほとんど通じているところですね。人間がおもしろいとか楽しいとか感じるときっていうのは、時代とか風俗、習慣で変わりますけれど、その時代〳〵に合った固定観念が少しずれたときに、楽しかったり微笑んだりするわけです。そのずれの振幅が大きくなってしまうと今度はブラックユーモアに近づいていってしまう。珍道具は日常雑貨から生まれているものが多いですから、そのバランスをはずしてないものが多いですね。

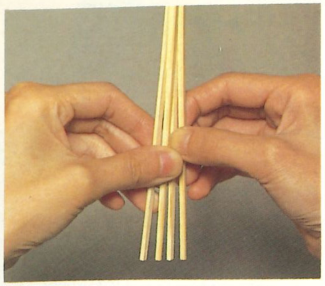
いくつかのタイプにわかれると思うんですけど、まずは日常の道具を複合さ



十徳手袋「子供が考えそうだネ」(PART I 72ページ)

せたもの。大企業なんかでもやっている、ボールペンなんかに時計つけたりする複合アイディアってのは、発想の基本ですよね。そういう意味では「4取っ手カップ」は、ただ倍にするという単純な複合アイディアです。これはおもしろいし、じっさい使いやすいと思いますが、スタンスとしては微妙なところがある。文化というのは、ぜい肉を少しずつ落としていって成り立っていくものだと思うんです。文化である日常雑貨も便利さを追求して最後の1本になるわけで、その文化をぶち壊して、単純に便利にするのはいけないと思う。ぶち壊して一回戻ってくるから知的になるわけで、珍道具をつくる点で、そのへんのところがわかってないとだめですね。だから、発想する人は成熟した方でないと、アイディアがもたないと思います。

たとえば「食器いらずランチョンマット」。これは、無駄を省いていながら遊びのある、実用一辺倒の珍道具だけれども、これが、ただたんに食事の支度がめんどくさいっていうところから発想されてるとつらいものがありますね。そう



4分の1割りばし　際限なく細かくすれば森林が守れる？(PART I 170ページ)

じゃなくて、なぜ食器類をいろいろ変えなきゃならないんだろうって考えたあげくにここに到達してくれると哲学になる。アイディアとか笑いとかってのは、哲学がわからないとだめです。悲しさなんかは感覚でわかるけれど、笑いはそうはいかないですから。

珍道具で環境問題について意見する。

すごくシニカルなのが「砂糖つき使い捨てスプーン」。この人は使い捨てに対して、ふだんから問題意識をもってたんでしょうね。これは、モンティパイソンの世界ですよ、スラプスティックっていうか。ただスプーンに砂糖パックをつければいいだけの話なのに、すごくスプーンにこだわっている。コーヒーに砂糖を入れるときはスプーンを利用するという、固定観念から出たアイディアでしょうけれど、「4分の1割りばし」と似た部分がありますね。この割りばしの場合は、環境問題をマクロからミクロに引き下げてしまうというおもしろさがある。「割りばし自体は廃材で森林破壊にはつながらない」という意見があって、「でもじっさい、現実に割りばしは木を使って森林破壊してるじゃない」っ





▲**猫舌用カバー**　これで、熱くないかわりに味もまったく感じなくなってしまう（PART 1　74ページ）▶**握力強化ばし**　（PART 2　200ページ）

ていう意見もある。それに、もう言葉で反論したくないって人は、「これじゃあどうだ、2セットとれる」ってだす。でも「それでも木は減るでしょう」っていわれる、じゃあ4人ぶんで、8人ぶんで……となる。こういうものの説明がいちばんいいんじゃないですかね。こういうのは「意見珍道具」とでもいいますか、ふだんから世の中に意見もった人でないと浮かばない道具ですね。

元気なポジションにあるもの、ドタバタみたいなものもいくつかありますね。「知恵の輪式自転車錠」。これはユーモラスですね。これつけても、泥棒さんはおそらく切って持っていくでしょうけれど、たぶん笑いながら持っていくでしょうね。笑いながら、会ったことないけどいい奴だろうなって(笑)持っていく。そういうのわかって、持ってかれるほうにも覚悟がありますよね。「猫舌用カバー」。これもドタバタアイディアですね。食べ物を味わうということは、ほかの哺乳類にはないことで、人間は味覚が弱い動物だから味がないと食べつづけられない。でも味わう以前の温度の問題、味をみる前に私は猫舌なんだっていうと、うまいまずい以前に、熱い料理か、



PROFILE

くろがね・ひろし

漫画家。ユニークなキャラクターで、テレビなどでも縦横無尽に大活躍中。

そうでない料理かってことで批評のしかたがちがう。グルメ批評家たちが、うまいから食えっていうのは、じつは暴力なわけで、この道具でそれがわかるから、なかなか奥が深いものだと思います。

「私設バス停」、これと似たようなことをやった人がいるんですよ。その人は毎日5センチずつ、既存のバス停を自分の家のほうへ動かして、半年もすれば家の前にくるだろうと(笑)。これは、近視眼的にみたらすごいアイディアでしょ。遠くから見たら、まったく動いていないんだけれど、でも、少し離れると、バス会社が戻しにくるの(笑)。これをだれかが毎日見てるっていうのもすごい。これはゼノンの「アキレスとかめ」の話と同じだよね。

こういう珍道具考える人のなかには、一発当ててやろうっていう人もいるでしょうし、ただゲーム性で楽しんでいる人とか、いろんな人がいると思うんです。この人たちがパーティやろうといって何十人も集まったときに、とってもすてきなものになるだろうなって、そう思いますね。

本文中の「食器いらずランチョンマット」、「砂糖つき使い捨てスプーン」、「4分の1割りばし」、「猫舌用カバー」はPART 1掲載。（取材協力　TOP,S SAXON）



バス用品
濡れずに入浴全身カバー



提案！ 新スタイル入浴法。ストレス解消にも効果あり？

冷え症の方に朗報。パジャマに着替えてあとは寝るだけ。でも、からだが冷えて寝つけない。お風呂にはいって温まればいいのだけれど、着がえるのもめんどう……と悩んでいる人のために、これをぜひおすすめしたい。

防水処理をした透明フィルムでできているから、お湯が内部に侵入する心配がない。これさえあれば、パジャマのままで湯舟につかることができるわけ。もちろん、スーツを着たままでだってはいれる。それに、からだの芯まで温まるから、ヘタな暖房器具で急場をしのぐより健康的だし、ホカホカ状態でぐっすり眠りにつくことができる。ただ、あんまり快適すぎて長湯をすると、汗でパジャマはベトベト。結局お風呂にはいりなおさなければ眠れなくなってしまう。もしかしてこれ、ダイエットにいいかも。

（案・平清悦）





かけ湯蛇口

あるかないかで大ちがい。こんないいものいますぐほしい。

座ったままでお湯をくむのはなかなかめんどう。かけ湯、洗い湯、あがり湯と何度も何度も湯舟に手を伸ばさなければならない。シャワーのない浴室ならなおさらだ。また、洗髪中、下を向いたままお湯をくむのもとてもたいへん。ということで、なんと湯舟に蛇口をつけてしまった。栓をひねるだけでお湯がでてくるのだから、もう手を伸ばしてお湯をくむ必要はない。もちろん、泡のついた洗面器を湯舟につけなくてもいいから、お湯を汚すこともない。

それに、残り湯をお掃除やお洗濯に使うときも、そのままホースをつなぐだけ。これ、とっても便利なアイディアだけに珍道具としてはちょっと失格だけど、実用化できるんじゃないの。（案・吉田浩一）

あふれ湯受けどい



お湯もムダなくつかいたい。浴室での効果的な節湯装置。

満々とお湯をはった湯舟にはいると、お湯があふれおち、ザーッという音が浴室に鳴り響く。この音を聞くだけで、疲れがとれてしまいそうな、とてもいい気分だ。だけどこれ、はっきりいってお湯のムダづかい。日本のような国で生活していると、ついつい忘れがちになるけれど、水はとても大切な資源。まして、せっかく沸かしたお湯をムダに流してしまうなんて、もったいない。ということで発明されたのがこれ。なんと、湯舟の側面にといをつけてしまった。ざぶん、と湯舟にはいったときにあふれ出たお湯は、このといを伝ってお風呂場の床に置いてあるバケツに残らずたまるという仕組み。これで、ムダなくお湯がつかえるというもの。洗い湯にするもよし、湯舟に戻すもよしだ。

といはプラスチック製。といのフチおよび、留め具などの金属部分は丸く加工してあるので、湯舟に出入りするときにからだが触れても大丈夫。小さなお子さまでも、安全性に問題はない。

湯舟に溜める水の量を、はじめから少なめにしておけばいいのでは？という疑問もあるだろう。けれどもこれは、湯舟からお湯をあふれさせるというぜい沢気分を満喫して、ストレスを解消しながら、なおかつ、お湯をムダにしないところに価値があるのだ。ただ、あふれ湯がといを伝ってバケツに落ちるので、浴室に鳴り響く音は、ボトボトボトと情けない音になってしまうのが欠点といえば欠点か。（案・杉野久美）





蛇口つき洗面器・バケツ

合理性を追求しつくした、腰にやさしい親切設計。

洗面器やバケツを使ったとき、もっと合理的に汚れた水を捨てる方法はないか、ということで考えられたのがこのアイディア。蛇口をひねるだけで、つかった水を簡単に捨てることができる。これなら、重いバケツを持ち上げなくてすむ。排出量を調節すれば、食器や洗濯物などのすすぎ洗いにも重宝しそう。ただ、唯一の欠点は、なかの水がなくなるのに時間がかかり、しかも蛇口より下の水は、器の底に残ってしまうこと。そのため、急いでいる場合は、洗面器、バケツともさかさまにして水を捨てるほうが手っ取り早く処理できることになる。

（案・佐藤昌俊）



風呂用新聞パック

新聞を毎朝読んでいる人なら、出勤前の朝風呂にも使える。

お湯につかっているときって、なんとなく手持ちぶさた。ひと節うなるのもいいけれど、時間は有効につかいたい。そんな人におすすめなのが、この風呂用新聞パック。お湯につかりながら新聞が読めるので、入浴時間が数倍有効に活用できる。

透明ビニール性で新聞紙が開いた状態でピッタリ収まる。つまり、表裏で4面分が1パックにパッキングできるというわけ。32面版なら8パック用意すればいい。完全防水だから、湯舟に沈めてもへっちゃらだ。これがあれば短気な人も、からだが十分温まるまでお湯につかっていられる。

身も心もリラックスできる入浴中は、脳波がアルファ波状態になる。この状態で新聞を読めば、意識が集中し理解力アップ確実。記事を読み終えるころ、からだの芯まで温まっている。毛穴が開き発汗すれば、血液循環や新陳代謝がよくなり健康にもいい。ただ、長湯がすぎてのぼせてはもとも子もない。（案・太田文子）



泡風呂ランナー



自分のからだを鍛えるついでに、お年寄り孝行だってできてしまう。



ジョギングが健康にいいことは、みんながよく知っている。しかし、ただ走っているだけでは、そのエネルギーがあまりにももったいない。世は省エネの時代。いかなるときでも、エネルギーの有効利用を考えなければならないということで考えられたのがこれ。ジョギングシューズに空気ポンプをつける。ホースの先にはシャワーノズルがついている。ノズルを湯舟に入れ、浴室内でジョギングすれば、湯舟のなかで泡がボコボコという次第。

ペアでやれば効率がいい。ひとりはジョギング、もうひとりは泡風呂でリラックス、という具合。しばらくジョギングをすると、息はゼーゼー、全身汗だくになるから、お風呂にはいって汗を流す。これがまた気持ちがいい。そしてこんどは、最初に湯舟にはいっていた人がジョギングをする。すると、その人も全身汗だくになるから、また交代と、いつまでたっても終わらない。しっかり汗をかいては湯舟にはいるから、より健康的な入浴ができる。

もちろん、ひとりでも利用できる。この場合、ジョギングではないけれど、その効果はあまり変わらないと思う。つまりお風呂にはいって、湯舟の側面を交互に蹴ればいい。狭い湯舟の場合はかなりきついし、水の抵抗が加わるので、さらにエクササイズとしては効果的。泡の出具合が快適かどうかは自分の努力次第だ。でもこれ、かなり心臓の負担になりそう。心拍と血圧にくれぐれも注意したい。（案・山川真希）

どぶ掃除長ぐつ

掃除道具

ズルズル歩くだけで、清潔な生活環境がつくれる。

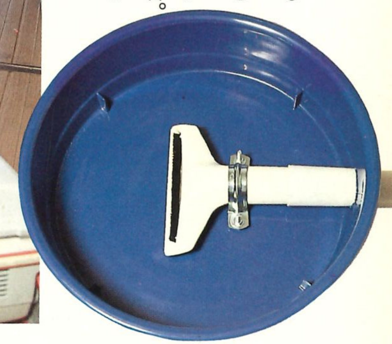
どぶは病原菌の温床になる可能性がある。清潔な環境づくりのためにも、どぶ掃除はとても大切な仕事だ。なんてことは重々承知しているけれど、いざはじめるとなると、なんとなくおっくう。汚いし、くさいし、体力を使う。とくに冬の寒いときなんか考えるだけでも風邪をひきそうだ。

けれども、このどぶ掃除用長ぐつがあれば、イヤなことなど忘れて、楽しみながらどぶ掃除ができる。なんたって、どぶのなかを歩いているだけで掃除ができてしまうという安易さだ。こんな便利なもの見のがす手はない。

ゴム長ぐつに、右足用からスコップが、左足用からは三つ又フォークがニョキッとはえている。これをはいて、ドブをズルズルすり足で歩く。石ころをけるような気持ちで歩くのがコツ。ゴミが集まったら、スコップですくって道路に放り出せばいい。家族全員でわいわいやってもいいし、町中、みんなこれをはいて歩けばいい。そうすれば町中清潔そのもの。つまずきやすいので練習は念入りに。（案・松島恵美子）







無公害ふとん叩き

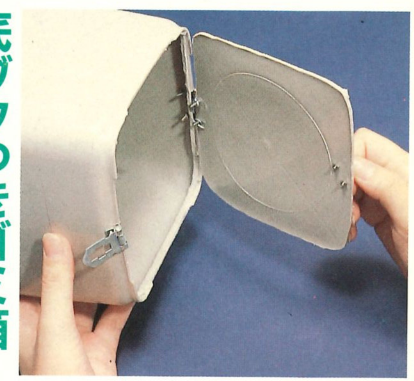
これで、思うぞんぶんふとんが叩ける。

よく晴れた日の午後、パンパンとふとんを叩く光景。けれどもこのホコリ、ダニもまじって風下の家に飛ぶ立派な公害。そこでホコリを掃除機で吸い取ろう、という逸品だ。（案・田野倉清）

底ブタつきゴミ箱

底からゴミを捨てられる。

ゴミ箱を逆さにすると、運ぶときに持つ口のまわりが汚れる。そこで、底からゴミをだせばいい。ただし、手は、やっぱりゴミまみれだ。（案・ユーモア発明クラブ）



キャスターつきバケツ





これならバケツリレーも楽。

なぜ水のはいったバケツは重いか。持ち上げるからだ。そこで、大きいバケツにキャスターをつけた。これなら持ち上げないで運べるから楽チンだ。もちろん、水を捨てるときには持ち上げなければならないが。（案・児玉政彦）

モップつきほうき

はいて磨く、が合体。これで、床掃除のスピードもアップする。

ふたつのものをひとつにまとめると、便利さも2倍になる。掃除でも、床のはき掃除をして磨く、というとき持ちかえなくてすむように、ほうきとモップを合体。たしかに便利だけど、使いにくさも2倍になるかな。（案・山口俊）





タイル洗い靴

きれい好きでも掃除はイヤ。それならこれを使いなさい。

お風呂場のタイル洗いは重労働。狭いところにしゃがみこんでゴシゴシするからたいへん。

その点、このタイル洗い靴なら、これをはいて歩くだけでタイルがきれいになる。立ったままなので腰もいためない。左右でタワシ4個ぶんの面積が一度に洗えるから、能率アップまちがいなしだ。水をまき、洗剤をちょっと落としてやれば効果満点。体重からくる圧力でガンコな汚れもきれいに落ちる。ただ、靴底がタワシのせいか少々不安定。立っているのがやっとなのが唯一の欠点だ。（案・竹村律子）







電気掃除機の友

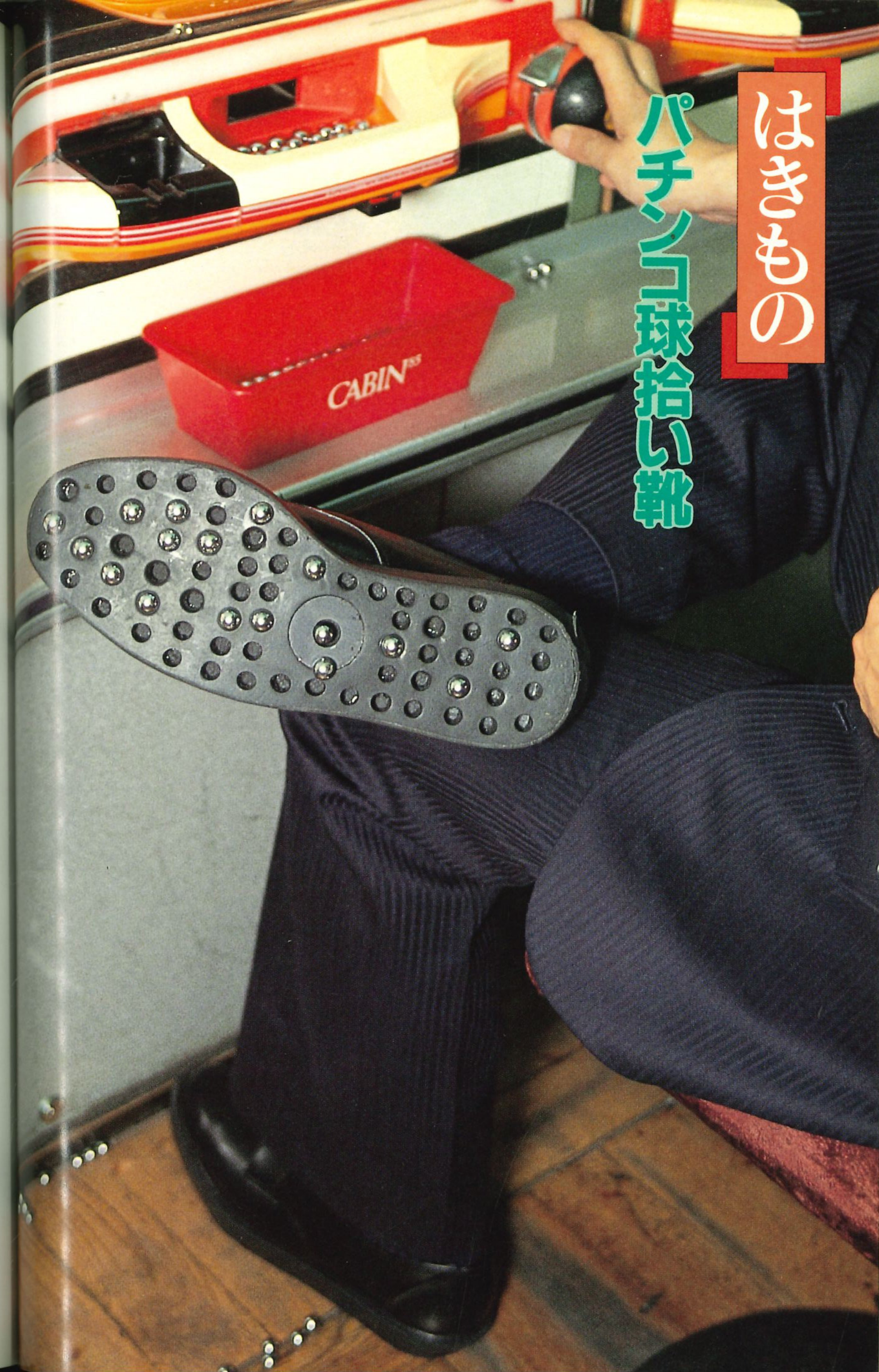


これさえあれば、大型ノズルひとつで掃除ができる。

最近は、ファジー制御のターボノズルなんていう、なんだかわけのわかったようなわからないような電気掃除機がでてきた。どうも、畳でもカーペットでも床でもノズルを切り変えることなく掃除ができるものらしい。たしかに便利になったけれど、それでもまだ解決されないこともある。たとえば、すみっこにあるホコリ。これを吸い取るには、ノズルを交換しなければならない。

そんなとき、この電気掃除機の友をはいていれば、つま先でチョイチョイと小さなゴミをかきだしてやり、掃除機で吸い取るだけでいい。かがんでゴミを拾わずにすむし、めんどうなノズルの交換も必要なし。ただ、ちょっと歩きにくいのが欠点か。（案・笛木祥幸）

はきもの パチンコ球拾い靴





だれにも知られず、落ちたパチンコの球をいただく。

パチンコは魔物である。あの小さな球1個でチューリップが開き、7が3個ならぶと、天国への門が開かれる。しかもこれを味わうと、なかなかやめられないのがパチンコの魅力、というのはちょっとオーバーだけど、球一個が勝敗の鍵を握るギャンブルである。しかも、パチンコ店の床にはパチンコ球がいっぱい落ちている。これを放っておく手はない、とはだれもが思うこと。でも、負けているからといってその球を拾うと店員に怒られそうだし、だいいちカッコ悪い。駅のごみ箱からだれかが捨てた新聞や雑誌を拾うようなもの。そんなところを娘や同僚に見られた日には、あとでなにをいわれるかわかったものじゃない。

そんなときのためのダンディーな靴がこれ。この靴を履いて、何気なく店内を一周。すると、片足69発、両足で合計138発の球が靴底の穴にすっぽりはいるというわけ。底には強力な磁石がついているから、片隅の球も、ちょっと足を延ばせば引き寄せられる。この磁石は健康にもいいからパチンコをやらないときにもはいていたい。ただし、足をもちあげていよいよ穴から球を取りだすとき、店員さんに見つかる恐れがあるのが欠点か。（案・森利正／土谷良一）



補助輪つき初心者用ハイヒール





OL一年生におすすめ。これでスマートなおとなの女になれる?

ハイヒールは、おとなの女に与えられた特権だ。社会人になったらハイヒールでさっそうと出勤したい、そう考えている若い女性も多いはず。しかし人には向き不向きがあって、かならずしも、だれもがスマートに歩けるわけではない。からだの平衡感覚の鈍い人や、まだハイヒールに慣れていない若い女性の場合は、あっちにヨロヨロ、こっちにフラフラ。お世辞にもカッコいいとはいいがたい。これではせっかくのハイヒールもだいなし。

そんなハイヒール初心者におすすめしたいのがこの補助輪つきハイヒール。ヒールの横に小さな車輪がついているため、よろけずまっすぐに歩くことができる。もちろん自転車の補助輪と同様、慣れてきたらはずせばよい。なお、この補助輪を利用するときは、初心者マークをいっしょにつけるのをお忘れなく。(案・川上芳子)



芝生サンダル

アスファルトで芝生を感じる。

緑の芝生をはだしで歩く。こんなに気持ちのいいことはない。そこで、いつでも、どこでも芝生の感触が楽しめるサンダル。ビルの谷間にいても、目をつぶれば自然のなかにいるみたいに感じられる。足の裏をここちよく刺激するので、健康にもいい。ぜひともお試しいただきたい。(案・ユーモア発明クラブ)

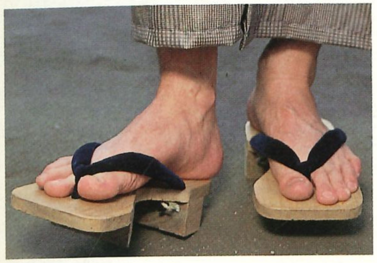
靴べらつきシューズ

はきにくい革靴を、はきやすくした。

靴ベラのないところで、うっかり革靴を脱ぐとたいへん。名刺を靴ベラがわりに使うはめになる。靴をなかなかはけないでいると、あとの人もイライラするし、なにしろカッコ悪い。そこで、はじめから靴ベラをつけたシューズ。これならスマートにはける。ただし、ちょっとばかり歩きにくく、脱げやすいのが難。(案・橋本恵津子／鎌田道祥)







土踏まず体験ゲタ

扁平足でも土踏まずが感じられる。

土踏まずはすばらしい。大地のにおいを感じながら、みずから土に汚れることがない。足の裏の貴族といってもいい。この土踏まずを、扁平足の方にも思うぞんぶん体験していただけるのがこのゲタ。土踏まずがないぶん、軽量化にも成功した逸品だ。(案・川上賢司)



足あとつきビーチサンダル

夏の想い出を砂浜に残す。

ビーチサンダルで歩いた足あとは情けない。ゾウリムシの行列のようだ。夏の砂浜に、5本の指のついた足あとを残せるサンダルがこれ。(案・ユーモア発明クラブ)

下駄ッパ

簡便で情緒のあるはきもの。

スリッパのように簡単につっかけられ、カラン、コロンの昔懐かしい音も楽しめる、機能と情緒を同時に満たす、理想のはきものがこれ。これなら、雨の日でも足が濡れにくいし、ケンカのときには武器としての役目も十分果たす。ぜひとも製品化してもらいたい。(案・ユーモア発明クラブ)





強制換気靴

実用新案を申請したいほど！水虫お父さんの必需品。

水虫でお悩みのお父さんに朗報！　蒸れない革靴の登場だ。

やっかいな水虫を退治するには足先を乾燥させておくのがいちばん。しかし、革靴を脱ぐわけにはいかないのがサラリーマン。会社でサンダルにはき替えるのも恥ずかしいし、5本指つきソックスをはいているのがばれでもしたら「わたし、水虫です」とみんなに宣言しているようなもの。

そこでおすすめしたいのがこの靴。かかとが空気ポンプになっていて、歩くたびにホースを通じてスースーと冷たい空気が指先に送られる仕組みなのだ。したがって靴のなかが蒸れない。じっさいにはいてみる、と、驚くほどの効果にだれもがびっくり。実用新案が取れそう。



これなら暑い夏のお得意さままわりも、涼しい顔をしてこなせるはず。歩けば歩くほど指先が快適な状態になるので、営業関係の方にはぴったりだ。ただし歩かなければ空気は送られないから、座りっぱなしの仕事の人は、ときどき足踏みをする必要がある。

水虫以外にも暑がりの人、アブラ足の人にもおすすめだ。（案・川上賢司）

靴底つきハイヒール



大人一歩前の女性に捧げる。

これも、いままでスニーカーばかりはいていた、OL一年生ハイヒール初心者向け。透明な底がヒールの下について、けっして転ぶことのない、安全な靴だ。〝不安定〟というハイヒールの欠点を解消してしまった、安定感のある画期的なハイヒール。

この靴でまず高さに慣れてから、つぎに細いかかとにレベルアップするというのが、正しい利用のしかただ。人間、そんなにあわてて大人にならなくてもいい。一歩一歩着実に踏み固めて、自分のものにしながら、という深い含みを持たせた靴だ。（案・平文佐子）



泥ハネ防止靴



雨の日にはこれ、みずたまりも怖くない。

これまた歩くのがうまくないOLさん向け。いくら美人でもストッキングが泥ハネで汚れているのは、なんとも見苦しいもの。そこで考え出されたのがこのガード。揚げ物をするときは、レンジまわりにてんぷらガードをするのが常識。雨の日のOLは泥ハネ防止靴が常識。これをマジックテープで貼っておけばいくら汚れても平気。じっさいの足が太めでも、ほっそり理想の足を描いておけば、バックシャンになれる。（案・石川智子）



くつげた

和洋折衷のアイディアから生まれた靴の逸品。

いまや日本の経済力はすっかり欧米を追い越してしまうまでに成長。しかし、日本人独自の文化のよりどころとなると、これがどうも疑わしい。われわれは、西洋文化に依存し過ぎてはいないだろうか。洋風のものが必ずしも優秀とはかぎらないのだ！

　そのいい例が靴。雪の日はすべるし、水たまりにはいれば水がしみる。そもそも革靴は雨の多い日本には合わないのだ。そこで、東洋の叡智と西洋の合理的な思考を合体させて生まれたのが、このくつげた。靴のもつフォーマルな印象を崩すことなく、日本の気候風土にぴったりの、げたのよさを生かしたはきものだ。（案・榊原淑隆）



食器

みえっぱり弁当



これだけ豪華なおかずなら、新聞で隠すことなくいただける。

　はっきりいって、これって道具じゃない。厳密にいえば、珍道具としてかなり不できなものだけど、奇抜なアイディアなのでここでご紹介。

　お弁当のおかずを人に見られるのは、なぜかとても恥ずかしい。かといって、ひとりでコソコソするのも楽しくない。そんな人のために考えられたのが、このみえっぱり弁当。こんな豪華なお弁当なら、どうどうと広げることができる。だけどこれ、りっぱなおかずはもとより、切り干し大根にいたるまでぜ～んぶロウ細工。ほんものは、ごはんと梅干しだけというしろもの。ひととおり見栄をはったはいいけれど、いざいただくとなると、かなり苦労する。おかずに梅干しだけで間をもたすのはたいへんだし、豪華なエビを残せば不審に思われる。結局、コソコソいただくことになる。

（案・出田由美子）

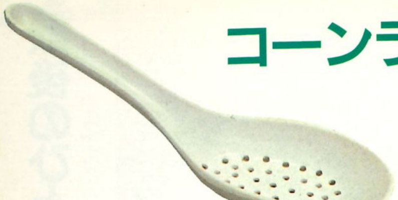


ラーメンすくいネット

これで麺クズ残さず、心残りもなし。

ラーメンをいただく場合、苦労するのが最後にどんぶりの底に残った短い麺のクズ。スープをぜんぶ飲みほせば、いっしょに残らずいただけて問題ないのだけれど、そこまでおなかにはいらないこともあるし、高いカロリーや塩分のとりすぎなんかも心配になる。それならあきらめればいいのだけど、どういうわけか麺のクズが気になってしまう。そんなとき重宝するのが、このラーメンすくいネット。どんなおはしにも装着できるので、ポケットやバッグに入れておき、ここぞというときに取りだして使えばいいのだ。これさえあれば、気になる麺の残りやひき肉などの細かい具も残らずいただける。ただ、ネットですくった麺が食べにくいのと、それを使って食べる姿が、けっして美しくないのが唯一の欠点だ。（案・折原まり子）





コーンラーメン用レンゲ

これさえあれば、スープを飲まず、好きな具だけをじっくり味わえる。

わざわざコーンラーメンを注文するのは、コーンを味わいたいからに決まっている。だけど、コーンラーメンのコーンをいただくには、さまざまな難関が待っている。できたてのときには、麺の上にコーンがのっているけど、そのうちみんな沈んでしまう。このとき、ふつうのレンゲだと、コーンをすくってもスープがいっしょにはいってきて、飲みたくなくても飲まないとコーンがいただけない。ところがこのレンゲだと、スープは下に落ちるので、ちゃんとコーンだけをいただくことができる。底にたまった具もすくえるので便利。ただ、このレンゲでどうやってスープを飲むかという大問題が残る。（案・丹羽郁子）

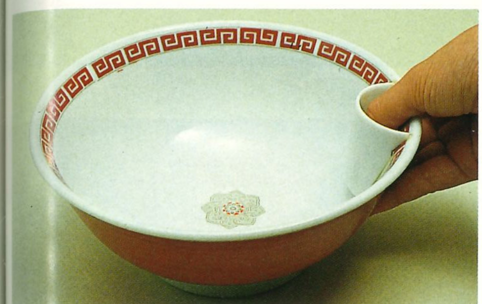




最後のひと口ラーメン食器

ラーメン好き必需品。残り具を全部たいらげる。

スープに沈んでしまったラーメンの残り具。なんとかして口に入れようと、悪戦苦闘する。ところで、この食器を使えば、念願の残り具をすべていただくことができる。ザルですくいあげればOK。これで麺をゆで、残ったスープに落としてやれば、麺のおかわりだって簡単だ。(案・富村美子)



指入れつきラーメンどんぶり

ラーメン屋さんにおすすめの、さりげない心づかい。

お店でラーメンを注文したとき、スープのなかに指を入れてだされることがままある。いくら評判のお店でも、これでは客足が遠のいてしまう。そこで、このどんぶりを使えば、お互いに気分がいい。(案・石黒敬章)



茶こしつき湯飲み

いつでもいれたてのお茶が飲める。

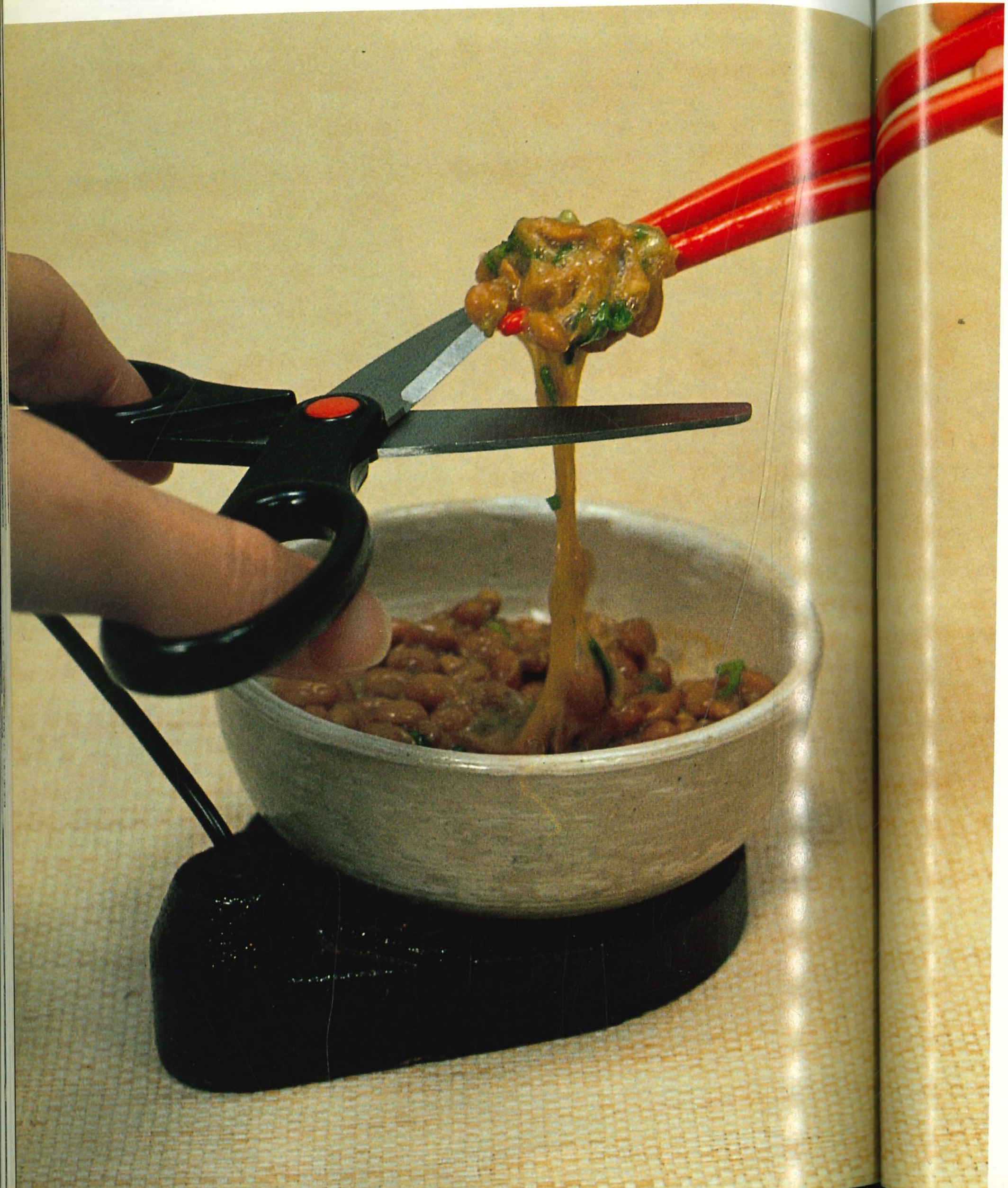
湯飲みの内側に小さな専用茶こしがついているので、熱湯とお茶っ葉さえあれば、いつでもおいしいお茶がいただける。ただし、気をつけないと、茶ガラまでいっしょに飲むハメになる。(案・故柳家金語楼)

めし汁どんぶり

家族みんなで使えば、食卓もひろびろする。

どんぶりのなかにお茶わんがセットされ、2重構造となっている。写真のように、中央のお茶わんにごはんをよそい、まわりにおみそ汁を注げば、いちいち器を持ちかえることなく、ごはんとおみそ汁がつづけざまにいただけるという次第。家族4人がこれを使うと、おわん4個ぶんのスペースがあき、食卓もひろびろして、器を洗う手間もはぶける。ただ、みそ汁をいただくとき、ごはんが顔に落ちてくる。(案・上吉原忠)





納豆糸切り器

腕を高〜く伸ばしたり、おはしをグルグルしないでもすむ。

やはり日本人の朝食には、納豆がないといけない、と主張する人は多いと思う。

けれども、そんな納豆愛好者だって、あのねばねばした糸の処理にはちょっとばかり閉口するのではないだろうか。糸がなかなか切れずに、くもの糸のようにたなびいてしまったりするとたいへん。とくに、小鉢からご飯茶わんにとるときなどは、長〜いネバネバ糸であちらこちらがベトベトということにもなりかねない。見た目もあまりよろしくない。

もっとお行儀よく納豆をいただく方法はないものか、と考えられたのがこの納豆糸切り器。下の台に小鉢をセット。安定したら納豆をとり、ねばねば糸をハサミでチョン。これなら恋人の前でだってどうどうと納豆がいただける。ただ、おはしから口に運んだときのネバネバ糸を切るのには使えないから、今度は口元にもハサミを取りつけたい。（案・黒沢直道）



バルブつき汁わん



どんなあわて者でも、中身をこぼす心配がない。

おわんものをいただくとき、フタがくっついて取れないときがある。不用意に取ろうとすると、おわんごとひっくり返すことにもなりかねない。そんなとき威力を発揮するのが、これ。フタについているバルブを開けるだけで、ピッタリくっついたフタが簡単に取れる。フタがくっつくのは、あつあつのお汁を密閉し、時間がたってさめたことで、おわん内の圧力が周囲の空気圧より低くなったため。フタをあけるには圧平衡をとる、つまり、おわん内に外の空気を送りこめばいい。おわんのフチを軽く押せばすむことを、バルブまでつけるなんてサスガ!!（案・加藤孝）





ごはん・みそ汁一体型どんぶり

あわただしい朝食に威力を発揮。朝寝坊派に最適食器。

朝食はとらないよりとったほうがいい。そんなことはわかっているけれども、1分でも長く寝ていたいと思うのが人情というものだ。

そんな朝寝坊さんにおすすめなのがこれ。どんぶりのまんなかにしきりがあって、ご飯とおみそ汁が別々によそえるようになっている。これで、器を持ちかえる手間が省けるというもの。1回の食事で器を持ちかえる回数で20回、それに要する時間を平均3秒とすると、1回の食事で1分の節約ができる。3食これを使って80年つづけると、なんと6日間も節約できる計算だ。ただ、こぼさないようにするには、細心の注意が必要。このロスタイムはどうなるかな?（案・林弘子）



最後のひと口カレー皿

お皿がピカピカになるほど、残さずキレイにいただける。

お皿に小さなでっぱりがひとつ、チョコンとついている。たったこれだけの発明。一見、こんなものつけてじゃまじゃないの？　と疑いたくなるようなものだ。ところが、これでカレーを食べてみると、最後のひと口になって、ようやくこの発明のスゴサがわかる。カレーライスをここに集めれば、簡単にスプーンにのせることができる。これさえあれば、最後のひと口を苦労せずにいただける。シチューや炒飯でもOK。スマートに食事ができて便利だけれど、でっぱりがあるため、お皿を重ねて収納できないのが唯一の欠点。（案・小山田つとむ）





食器洗い不要食器



水も洗剤も不要。ペロッとはがせば食器はいつだってピカピカになる。

どんなにお料理が好きな人でも、めんどうなのが食事がすんだあとの食器洗い。しかし、この食器洗い不要食器を使えば、あとかたづけがとっても簡単。なんたって、食べ終わったら油ものだろうとソースだろうと、汚れをペロッと食器からはがしてゴミ箱へポイするだけなんだから。これで、いつもおかあさんだけ仲間はずれだった食後のだんらんも、家族全員で楽しめるわけ。しかけはまことに単純。食器に換気扇の汚れ防止用のパックを塗るだけだ。全面に塗れば、どんなに汚してもはがせばピカピカというわけ。ただし、前もって食器にパックを塗っておくのと食器を洗うのとではどちらがたいへんか意見のわかれるところだ。（案・渡部裕子）

MICHIKO SHIMIZU

珍道具トークライブ

神聖な珍道具は、お笑いに使ってはいけない。

清水ミチコさん

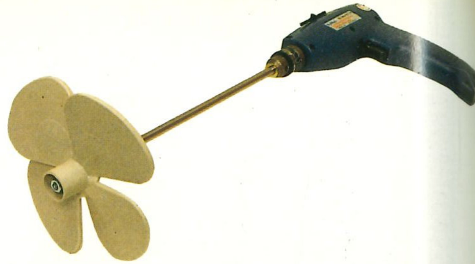


一般ウケを狙ったりしないのが珍道具のよさ。

こういう珍道具とか、コントのたぐいはだそうと思って出るんじゃなくて、つい出ちゃったものだと思うですね。とことんつきつめて考えるんじゃなくて、つい出ちゃう。いわばウンチみたいなもんだと思うんです(笑)。だから、発想も、なんだか真剣にやってるの、インチキくさいですね。人を驚かそうという発想にいく悪い奴(笑)もいますが、そういうのはよくないですね。ためになりそうでならない、そんな微妙なところがいいんです。

ふつう、商品というのは、一般ウケさせようと考え出すものですが、一般のためにでなくて、たとえば「機内用地面マット」の高所恐怖症の人のように、特殊な個人のためになにかを考え出すというのが珍道具のよさだと思います。





▲風呂桶洗濯機　お風呂の残り湯に洗濯物と洗剤を入れ、洗濯できる。(PART I　18ページ)◀イヤリングキャッチネット、耳栓イヤリング(PART I　175、182ページ)

私が試してみたいなと思ったのは、「カフェオレ用ストロー」。ふたつのコップそれぞれからコーヒーとミルクが同時に飲めるというのがいいですね。これは、まじめな商品としてもおもしろいんじゃないですか？　珍道具のコンセプトって、一石二鳥というのが多いんですけど、これは二石一鳥っていうんですか。ふたつのコップを一回で飲むというのは、ふたつのものを用意して作業したのにひとつしかいいことがないわけですから、ものすごく新しい発想だと思いますね。

いま、私は「バーミックス」という機械に凝っているんです。それは、容器に食材を入れて、小型のスクリューを突っ込めばなんでも混ざっちゃうというものなんですが、その発想と同じで気に入ったのが「風呂桶洗濯機」。いつも主婦として、お風呂と洗濯機の関係ってどうにかならないかと思っていたものですから、お風呂に洗濯物を突っ込んで洗えたらどんなにいいかって思うんです。

同じくお風呂と洗濯機の関係の発想から生まれた便利ホースを利用した「流水水まくら」もいいですね。このホース、うちにあるんですよ。昔から両親が「王様のアイデア」が好きで、この便利ホースとか、寝ながら電気を消す道具と





▲**外反母趾防止ハイヒール**　指が出るので圧迫しない。(PART2　168ページ)◀**外出先つけ替えマニキュア**(PART I　187ページ)

か、ぶらさがり健康器とか家にあったんです。もちろん、そのホースで頭を冷やしていたわけじゃないですけど(笑)。

外反母趾防止ハイヒールに、小柳ルミ子賞を授ける。

「2分の1段差階段」。これ、笑った。これ、好きですね。これ使うと、階段登るのが、ラクになるんでしょ。こののんびりした考え方がいいですね。

「サイクリング中乾燥器」もおもしろいですし、「ティッシュつきマスク」も笑えましたね。私、基本的に顔がヘンになるものが好きなんですよ。

「両方向スリッパ」というのもバカバカしくていいと思いますね。「オールシーズン用スリッパ」とかもほしいですね。たくさんあったら逆に貧しい感じがしますけど一家にひとつぐらいあるとリッチな感じがしていいですよ。

ほんとうにいいな、と思ったのが「携帯駐車場」。これは警察からクレームがきて、だめなんでしょう?

「外反母趾ハイヒール」は、最近、外反母趾になったという小柳ルミ子さんに



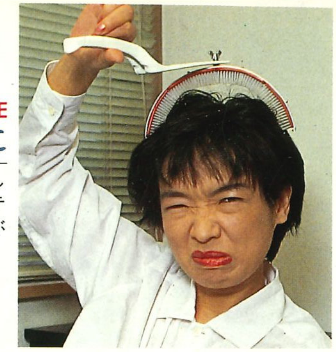
オールシーズン用スリッパ　(PART I　128ページ)

いいですね。これ、小柳ルミ子賞をあげましょうよ(笑)。

発明品は、実用性に走るので、デザインが悪いのはしょうがないけど、この「背中かき用Tシャツ」は、着て歩けるカッコよさがありますね。あと、実用的なのでは「臨時女子トイレ」ですか。先日新聞でも取り上げられていた、女子トイレ不足で長蛇の列ができる上野の東京文化会館とか、女性ばかりがいくバレエの会場とかでは、けっこう使えるんじゃないですか。

それと、私がじっさいにやっているのは「カタログ試着シール」ですね。べつにシールにしているわけじゃないんですけど、自分の顔写真を切って『アンアン』とかのファッション写真にのせてやっているんです。これ、ほんとうに、なにが似合うか、似合わないのかがよくわかる。現実にこれを買おうか、つくろうかとか、コンサートの衣装を決めたりアイディアをだすのに役に立っています。すっかりはまっちゃったんですけれども。

「顔面ピンポン」とか「目玉シール」なんかもおもしろ



PROFILE
しみず・みちこ

本業の歌手をはじめ、ユニークタレントとして大活躍中。現在、「笑っていいとも」などテレビのレギュラーを数本かかえる売れっ子ぶり。日本珍道具学会名誉会員。

いと思いますけど、こういう珍道具というのは、どんなものでもコントに使ったり、笑いをとったり人にウケるものに使ったりしちゃいけませんね。珍道具って神聖なものですからその神聖なものを汚しちゃうみたいでイヤですね。珍道具は珍道具として楽しむものだと思うんです。家に置いてあって、パッと押し入れあけたら出てきちゃったとか、そういう陽の目をみない感じがいいんですよ。陽の目をみるのは「王様のアイデア」にいけばいいのであって、陽の目をみないほうが、なんかかわいくて愛しいですよね。

こうやっていろいろ見て、気がついたのは、なんか、デッカいものがないですね。「部分蚊帳」みたいにおもしろいものがあるんですけど、できることなら、ダイナミックに家ごと、くるんじゃうカヤなんて、あってもいいんじゃないですか？　家ごとくるんで、フチにはゴムがついていて、蚊が入ってこれない。そういうダイナミックなナンセンスなものもいいと思うけど、どうでしょう？

本文中に出てくる「カフェオレ用ストロー」、「風呂桶洗濯機」、「流水水まくら」、「サイクリング中乾燥器」、「両方向スリッパ」、「中心傘」、「背中かき用Tシャツ」、「カタログ試着シール」、「目玉シール」は、PART 1 掲載。



農業・園芸
農業用十徳ツール

これひとつあれば、すべての作業がこなせる。

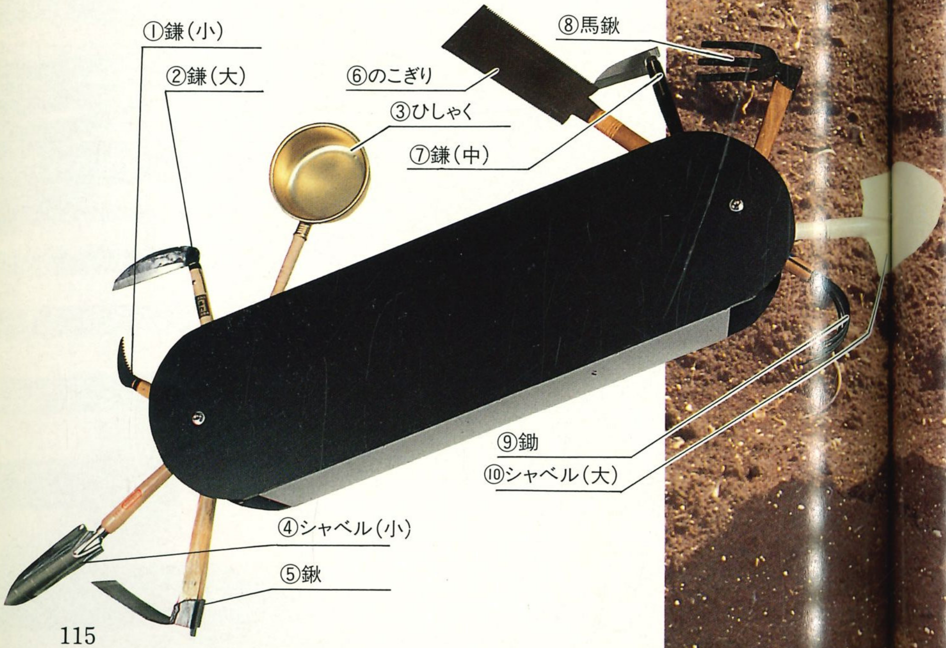
缶切り、栓抜き、ハサミにヤスリ、ドライバーと、暮しのなかでちょっとした作業をするときにとても重宝なのが、アーミーナイフのような十徳ナイフだ。このアーミーナイフの『10 in 1』の卓越したアイディアを農作業用に応用したのがこの農業用十徳ツール。

シャベル大・小、鎌、鋤、のこぎり、ひしゃくなどなど、10種類の道具が本体に収納されており、ひとつひとつ取り出して使うことができる。これひとつあれば、用水を掘り、畝を耕し、雑草を刈り、水をやり、そしてジャガイモやサツマイモを掘りおこすといった、すべての農作業が自在にこなせる。しかも道具を使ったあとはすべてコンパクトに折り畳めるから携帯にも便利。たくさんの道具をガチャガチャいわせて運ぶ手間が省けるというもの。

農業の近代化に大きく貢献するアイディアだけれど、ただひとつの欠点は重さが8キロもあること。そのためこれを使いこなすには、まずトレーニングが必要。

モノトーンのケースは、すっきりとしたデザインがおしゃれでみた目もファッショナブル。これで農村の若者の農業離れを少しはくい止められるかも。農作業には少し目立ちすぎるかもしれない。けれど、女の子の視線を一身に集めることができる。これで、畑に出るのが楽しくなることうけあいだ。ただ、見てのとおり、なかなか使いにくいのがタマにキズか。ちょっと改良の余地がありそう。

（案・栗原明義）





携帯畑

都会人の小さなぜいたくを実現した傑作。

バック・トゥー・ネイチャー。現代人はだれもが自然を求めている。土に親しみ、緑を愛する生活にあこがれないひとはいない。しかし、現実はどうだろう。都会には自然どころか、ささやかな庭つきの家を求めることすらぜいたくになってしまっている。ほんとうに小さくてもいいから庭がほしい！　都会人のそんな心からの叫びに応えるべく生まれたのが、この携帯畑。歩きながら農業ができる趣味と実益をかねた家庭菜園なのだ。

会社や学校にいくとき、肩からぶら下げて日当たりのいい道を歩き、会社に着いたら窓ぎわや屋上の日当たりのいい場所に置いておく。もちろん夜は持って帰り大切に育てる。だから、だれかに盗まれる心配もない。そして、野菜が育ったら、畑をそのまま食卓の上にのせれば、正真正銘の産地直送の、新鮮な野菜がいただける。しかも無農薬の健康食品だ。こんな素敵な畑だもの、近い将来、だれもがこれをぶら下げて道を歩くことになるだろう。

ただし排気ガスが野菜の生育に悪い影響を与えることを考えて、できるだけ交通量の少ない道を歩くことをおすすめする。（案・羽成琢磨）







多口ジョーロ

水やりがめんどうな横着園芸家にぴったりのジョーロ。

4つの植木ばちの水やりをいっぺんにすまそうというアイディアから生まれたジョーロ。植木ばちをジョーロの口に合わせて置いておけば、水やりはいたってかんたん。なかなか便利なシロモノ、一石四鳥だ。もちろん広い花壇に水をまくときなども速い速い。めんどくさがりの横着園芸家にぴったりの道具である。ただし、水も4倍減るから水の補給の手間は変わらない。これがこのジョーロの唯一の欠点だ。また、はちが大きすぎると間隔が広がり過ぎて、はちとはちのあいだに水をやってしまったり、などという欠点もある。

しかし、ちょうど学校のプールのシャワーのようなものだから、四人兄弟を海に連れていったときなど、ならべていっぺんに洗えてじつに便利。

（案・坂本智子）



草刈りサンダル

ブラブラしながら庭の草刈り。

なにをするにも、時間や労力を少しも無駄にしたくないというひとが考えたサンダル。

庭を歩いているだけで、雑草や芝がきれいに刈り取られてしまうのだ。これさえあれば芝刈り機もいらず、腰をかがめて、汗だくになって鎌で草を刈る必要もない。ひがな一日ブラブラしているだけでいい。ただしうまく使いこなすにはそれなりのコツが必要。とくに深く刈りこみたいときやガンコな雑草を根こそぎにしたいときは、できるだけかかとをひきずるように歩くこと。また、ガニ股で足を広げて歩かないと、草だけでなく、自分の足まで刈ってしまう恐れがあるので注意したい。（案・小林久）



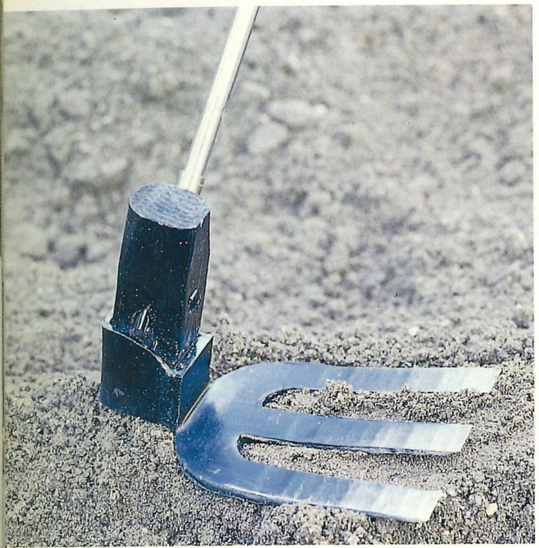
鍬つきゴルフクラブ

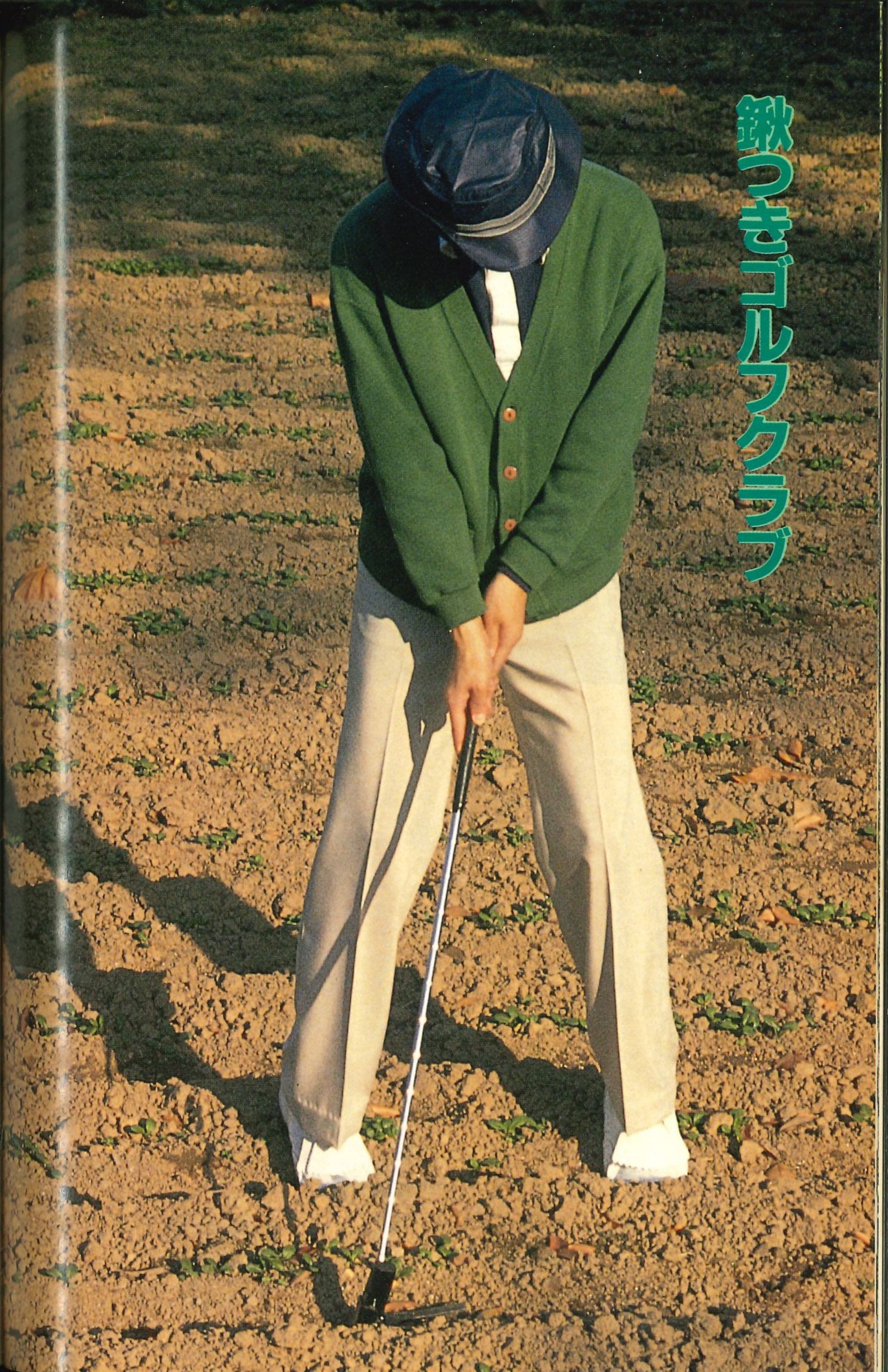
バンカーショットの練習をしながら農作業ができる。

　傘でもほうきでも、とにかく長いものを持ったら、すぐにスイングの練習をしたくなるのがゴルフマニア。電車やバスを待ちながら傘を振りまわしているおじさんをバカにしていた人も、いざゴルフをやりはじめると、同じように傘を振りまわしている自分に気づくはず。しかし、ただ素振りしているだけではろくに上達はしないし、そのエネルギーももったいない。

　ところが、このヘッドが鍬になっているクラブを使えば、畑仕事をしながらゴルフの練習ができる。仕事をしながらスポーツの練習という一石二鳥道具である。畑をお持ちでない方なら、庭に家庭菜園をつくれば家族にも喜ばれる。それにこれならお金もかからないから、どうどうとゴルフの練習に出かけられる。

　畑を耕しながらスイングするから、とくにバンカーショットの練習にはもってこい。そのうえ筋力もついてたくましい体力づくりの一助にもなるというわけ。けれども、このクラブを使い慣れると、ついつい深く耕す癖がついてしまって、コースに出たときもグリーンを掘り返して、周囲のひんしゅくを買う恐れがある。また、フェイスがかぶりすぎると、耕した畝が曲がってしまう。（案・加藤久夫）





高所用具

高所恐怖症用めがね



いつも視野のなかに地面を見ていることができる。

意外に多い高所恐怖症。けれども、高層ビルがどんどん増え、オフィスが地上40階、50階などというのはいまや常識。高所恐怖症の人にとっては、勤め先のオフィスの窓にも近づけないという事態にもなりかねない。自分のオフィスにいながら冷汗たらたら、膝ががくがく、これでは部下にもしめしがつかないというものだ。そんな高所恐怖症方に朗報。このめがねさえあれば、どんな高いところにいっても大丈夫。

レンズのなかに小さな地面が入っているので、どんなに高いところに昇ってもつねに視界のなかに地面が見える仕組みになっている。そのため「高いところが大の苦手」の人も、いつでも大地を感じることができて、かけていればもう安心、心がなごむはず。どんなに高いビルの工事現場にいっても、これさえあれば心強いかぎりだ。

ただし、視界が狭まり、足もとが見えにくいので、足場の悪いところは歩きづらいし危険でもある。また、めがねをかけたまま遊園地のループ式ジェットコースターなどに乗って回転すると地面が頭の上と下の両方に見えてしまい、よけい怖い思いをすることがあるので要注意。

（案・草井雅彦）





機内用地面マット



空中にいながら、地面に足をつけていられるマット。

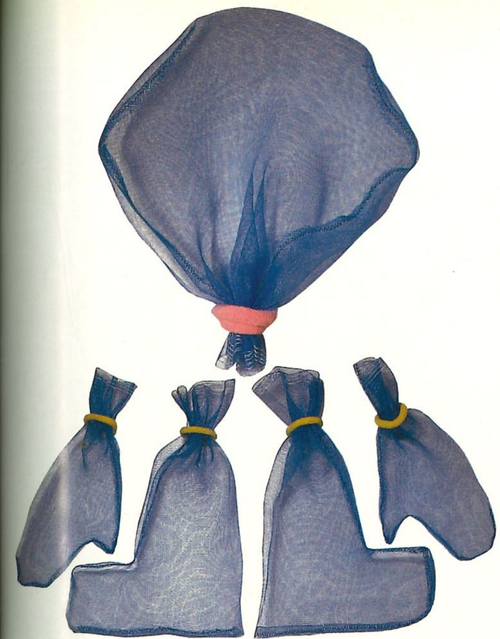
高所恐怖症の人にとってなにが恐怖かといって、飛行機ほど怖いものはない。なにしろ足の下にはなにもない、宙に浮いた状態なのだからおちおち寝てもいられない。これこそそんな人たちのために考えられた、土と砂でできたマットだ。このマットに足をつけていれば雲の上でも地に足が着いている感じがして安心。恐怖感を、発想の転換で克服してしまおうという道具だ。

飛行機が空を飛べる理由を考えると、心配で夜も眠れないという人に、各航空会社の機内に、乗客サービスとして常備していただければ、こんなに安心なことはない。（案・熊沢庸子）


防虫
部分蚊帳

無駄な殺生をせずに、快適な夏の夜が過ごせる。

夏の夜といえば必ず出てくるのが、蚊。なぜかまぶたとか、かかととか、かきにくいところばかり刺される。しかもこのごろの蚊ときたら、殺虫剤に免疫ができているのか、なかなか死んでくれない。それにペットを飼っていると簡単に殺虫剤は使えないし、だいいち人間のからだにだっていいわけがない。



そうなると、懐かしいのがあの蚊帳。殺生することもなく蚊から身を守る、日本人のやさしさと叡智の結晶だ。小さいころ、なかに蚊がはいらないようにすばやく裾をめくってはいらないと怒られた、鴨居に引っ掛けて吊った、あの蚊帳だ。

しかし、あんな大きな蚊帳って、はたして必要なのだろうか。蚊に刺されるのは、布団から出ている手、足、顔。ここさえ守れば、蚊からの攻撃はほとんど防いだことになる。それなら簡単。布団から出ている部分だけが蚊帳を必要としているというわけだ。そこで考えられたのが、この頭、手、足、専用の部分蚊帳。寝る前に布団から出ている部分にこれを着けるだけ。もちろん、おなか用の部分蚊帳が必要になる人もいそう。

小さいから収納が楽だし、海や山にいったときも、これだけで用が足りる。(案・小島美穂)

網戸めがね



田舎道を走るバイク、自転車の必需品。

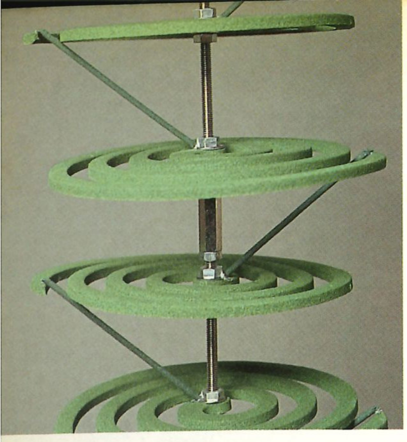
おめめぱっちり美人の悩みは自転車やバイクに乗ったとき、自慢の大きな目のなかに虫が飛びこんでくること。痛いばかりでなく、事故だって起きかねない。そんなときのために生まれたのがこの網戸めがね。これならどんなに虫が飛びまわっていても気にならないし、夏の田舎道だってまったく怖くない。

そう、たしかにふつうのめがねだってかけていれば虫に悩まされることはない。だけど、せっかくの大自然の風なら顔全体で受け止めたい。スースーと風のはいってくるこのめがねで、日本の夏を満喫してみよう。(案・庄篭万佐子)





一週間蚊取り線香



いまはなき美空ひばりに捧げたい日本の夏の風物詩。

日本の夏の風物詩といったら、スイカに花火、蚊取り線香。でもこの蚊取り線香、最近めったにお目にかからなくなってしまった。なんだか煙の出ない薬品っぽい蚊取り器ばかりで、寂しいかぎり。けれども、たしかに30日間取り替えいらずの便利さも捨てがたい。そこで、懐かしさと便利さを合体させてできたのが、この一週間ぶんの蚊取り線香を線香でつないだ、特製蚊取り線香。一度点火したら一週間燃えつづける。もしなんなら、1カ月ぶんの背の高～いのをつくってもいいだろう。灰の受け皿もついていて、ちょっとしたインテリアにもなる。(案・鈴木康子)

蚊取りうちわ



夏の運動不足解消虫追い道具。

骨の内側に粘着剤が塗ってあり、蚊などの害虫をとってくれるといううちわ。あの、天井からぶら下げていた、ベタベタのはえ取り紙とうちわを合体させたと考えればいい。このうちわなら夏、ぶーんと飛んでくる蚊をはたき、はえをくっつけ、ゴキブリをすくう。運動不足のおり、童心にかえって虫を追いかけてみてもいいだろう。(案・ユーモア発明クラブ)



アリンコホイホイ

家を食い荒らす
アリンコ退治。

なかの砂糖の甘いにおいにつられてアリンコがぞろぞろ集まってくる。おなじみ『ゴキブリホイホイ』の改訂版である。なぜこんなものが必要か。アリンコなんて気持ち悪くないし、かわいいじゃない、といってるあなたはじつに甘い。たしかにゴキブリは気持ち悪いけれど、いくら増えたところでまあ、たいしたことはない。しかしアリンコのなかには家の土台を食い荒らすやつだっているのである。気を許してはいけない。ちょっとアリンコにかわいそうな気もするけれど、田園生活には絶対の必需品である。

(案・白坂幹治)





通勤・通学
足踏まれ防止靴

爪先を武装して通勤
ラッシュの戦場にのりこむ。

みんな自分だけがカワイイ。それが証拠に、満員電車のなかで足を踏まれようものなら、そりゃあもう、怒髪天をつくとはまさにこのこと。満員電車のなかでは、からだとからだが密着しているぶんだけ他人を意識して、みんな自分の世界にはいり込んでいる。だからよけい、人に足など踏まれると頭にくる。とくにOLのみなさんや奥様方のはく、あのハイヒールのかかとは、まさに凶器。勢いよく踏まれたりしたら、骨折までいかなくとも、しばらくその場から動けなくなるほど痛いのだ。

そこで考えた。攻撃は最大の防御だ。足を踏ませないためには、テキに少々痛い思いをさせるのがいちばん。ちょっと暗いけれど、効果てきめんの、足先を剣山で武装した靴だ。(案・矢本正一)

居眠り用タレ幕



電車のなかで大事な睡眠時間を確保するために。

ゴトゴト揺られながらの、電車のなかでの居眠りほど気持ちのいいものはない。うつらうつら、こっくりこっくり。なかにはあんぐり口を開けて高いびきをかいて眠っているつわものもいるが、まさか若い女性がそんなことをしては、お嫁にいけなくなってしまう。ところがいくらそう思っても眠ってしまえば、無意識のうちにどんな姿になっているのかわからない。かといって、眠い目をこすり、ぱっちり開けておくのも至難の技、徹夜明け、春の午後、電車のなかの居眠りはやめられない。

そんなとき、この居眠り用のタレ幕があれば万全。たとえどんな大口を開けようがほかの人からいっさい見えない。もちろんついついミニスカートの足が開いてしまっても、ちゃんとタレ幕が隠してくれる。これで、心おきなく眠ることができるので、ストレス解消の効果ははかりしれない。それに、昼寝は短時間でもとると、夜の睡眠よりも疲労回復効果が高い。電車のなかで30分でもグッスリ眠れれば、目的地に着いたときには、すっかり元気になっている。

しかも降りる駅が書いてあるから、居眠りして寝過ごしそうになってもだれかが起こしてくれるにちがいない。心配ならひとこと『起こしてね！』と書きそえておけば完璧、安心して熟睡できる。

ただし、目的の駅について、いざタレ幕をはずして電車を降りるとき、近所の人に顔を見られないようにしないと、今度こそ、ほんとうにお嫁にいけなくなってしまう。（案・草井雅彦）



車内用ハンモック

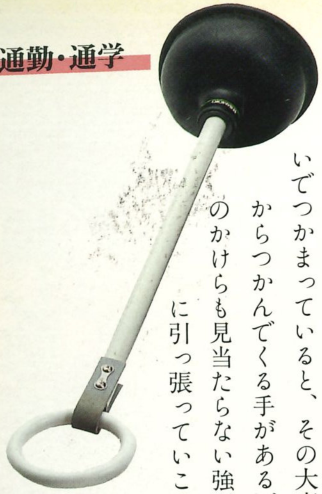
醜い座席の奪い合いができない育ちのいい人向き。

いまや都会の住宅難は常識。平均的なサラリーマンが、持ち家を手に入れようと思ったら、20年、30年のローンを組むしかない。そうしてやっと手に入れた家は、勤め先まで2時間ほどの超郊外。それでもまだましなほうで、片道3時間以上かけて通勤している人もいる。そこで、そんな長距離通勤者のために考え出されたハンモックシート。ネットの両端にロープとフックがついているから、電車の吊り革や支柱にぶら下げるだけで自分専用のシートが確保できるというもの。座ってよし、もちろん横になって眠ったっていい。レールのゴトゴトいう音もここちよく、車掌さんのアナウンスが子守歌がわりだ。

これを持って電車に乗れば、毎度おなじみ通勤電車の椅子取りサバイバルゲームに参加しなくてもすむ。いきはもちろん、酔っ払って帰るときなんか、じつに便利。よしんば最終電車に乗り遅れたって、これさえあればどこででも寝られる。軽いし携帯にも便利、長距離通勤者の必需品になる日は近い。会社で支給するとか、必要経費として認められるはず。

ロープを短く調節して高い位置にぶら下がれば、阿鼻叫喚のラッシュをはるか眼下に見下ろして、ひとり超然とプライバシーが楽しめる。でも、あまり露骨にゆったりしてると、憎まれて足を引っ張られる可能性もあるので要注意。もっと心配なのは、みんながこのハンモックを持って通勤をはじめたら、今度はハンモックを掛ける場所奪還のための争いが起こることだ。（案・林信利）





携帯吊り革

満足に吊り革にもつかまれない気の弱い通勤者に。

どうしてオバサンというのは、人がつかまっている吊り革を平気な顔をして奪うのだろうか。

座りたいなんてぜいたくはいわない、でも電車が揺れたとき倒れないようにと、やっとの思いで見つけた通勤ラッシュの電車の吊り革。必死の思いでつかまっていると、その大事な吊り革を、横からつかんでくる手があるではないか。遠慮のかけらも見当たらない強引さで自分のほうに引っ張っていこうとするその手は、まずオバサンのものと思って間違いない。オバサンでなければ中間管理職ふう、中年のオジサンである。そりゃオバサンだってオジサンだってたいへんなのはわかる。でもオバサンは自分が世間の中心だと思ってるし、オジサンは、会社で嫌な思いをしているんだから電車のなかでぐらいわがままになってやる、どうせまわりの人間はみんな他人なんだし、とこう思っているからなのである。そして、やっぱりオバサンには勝てない。アンタが持ってるその吊り革、ほんとはあたしのよ。よこしなさいよ的な態度で、結局吊り革は奪われてしまうのだ。

で、この携帯吊り革が生まれたというわけ。これさえあればいつでも安心して吊り革につかまっていられる。奪われそうになったらすっと吊り革を外してしまえばいい、ああ、なんと痛快ではないか。（案・ユーモア発明クラブ）



乗り越し防止帽子

周囲の人の好意に甘えて眠ってしまおう。

ついうっかり居眠りして終電車の終点までいってしまうような人のためにつくられた、それはそれは便利なヘルメット。自分が降りなければいけない駅がくると、起こしてもらえる。

「ただいま眠っております。お手数ですが下記の駅で起こしてください」と書かれ、後頭部は頭を固定するため、窓ガラスにつける吸盤が取りつけられている。これで、熟睡しても前にガクンとなったり、左右の人にもたれて迷惑をかける心配もなくなる。安心して眠れて、しかも目的地で起こしてもらえるのだから、なんとまあ、至れり尽くせりのヘルメットではないか。



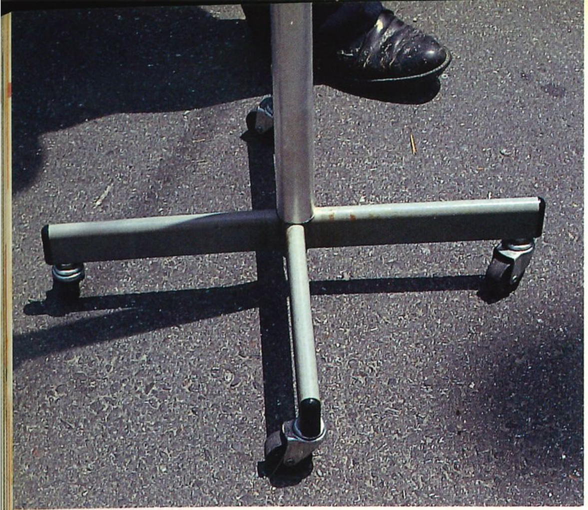
ただし、このヘルメットがあれば、車掌に「終点ですよ」と注意されることもなく、安心して眠っていられる……のは、同じ車両に親切な乗客が乗り合わせた場合にかぎられる。タチの悪い酔っ払いや小学生の団体などに出会ったら最後、こづきまわされ、はやしたてられること必至。大都会の、他人にはいっさい無関心な人々のなかにあっては、よくて無視されるのが落ち。こんなヘルメットをかぶって乗り過ごしたら、それこそみじめだ。

こういった、他人の手を借りなければならない道具類は、同じ電車に、たまたま乗り合わせた人がみんな顔見知りだったりするような、まだ人情の残るローカル線などで使っていただいてこそ、真価を発揮するものである。（案・石黒敬章）



私設バス停





自宅の前をバス停にしてしまうという強引なアイディア。

通勤・通学にバスを使っている人の苦労は、それこそ通勤・通学にバスを使っている人にしか、絶対わからない。

雨でも降れば時間どおりの運行は夢の夢だし、渋滞に巻き込まれたら最後、テコでも動かない。バス停に長蛇の列、やってきたバスも超満員。なかなかこないと思ったら、今度は何台もつづけてくる。そんなことは日常茶飯事、まあ、交通事情が悪いのだから、と思えばあきらめもつく。けれども、なにがくやしいといって、家を出てからバス停につく前に、お目当てのバスに追い越されることほど腹の立つことはない。あと30秒早く家を出ていれば、とほぞをかむ。しかも、そんなときにかぎってつぎのバスはなかなかこないものなのだ。

そんな思いを解消するにはこれしかない！ 自分の家の前でバスをキャッチしてしまおうというすぐれもの、私設バス停だ。もちろん家の前だけではない。持ち歩けば、どこでもそこがバス停になってしまうから、お目当てのバスがくるのを見つけたらそこで立ち止まればいい。ひょっとすると、ドラえもんの「どこでもドア」に優るとも劣らない、大発明かもしれない。ただし、バスに乗ったあと、だれかにかたづけておいてもらわないと、トラブルのもとになりそうだ。（案・五十嵐ひろみ／白石美雪／足山宗雄）



定期券入れつき手袋

スマートにスピーディーに改札を通りたいから。

たしかに、冬の寒い朝、いちいち手袋を脱いで定期入れをだし、駅員さんに見せて、また手袋をつけるのはめんどうな作業だ。自動改札だと定期券そのものをだすのでさらにめんどう。朝の通勤ラッシュのなか、駅の改札周辺でもたもたしている人ほどじゃまなものはない。とくに急いでいるときなんかイライラしてしまう。その点、小学生はうらやましいかぎり。ランドセルに定期入れごとぶら下げて、それをなびかせながら改札を走り抜けてしまう。

とはいってもいい大人がそんな真似もできない。せめてスマートに改札を通り抜けられないかとお悩みのみなさんにこれ。手袋に定期入れがついているからちょっと手をあげるだけで改札をさっと抜けられる。このほかバリエーションとして、夏用の腕章型定期入れなども考えられる。じっさい役に立ちそうだから、珍道具としては失格かもしれない。けれども、電車内でこの手袋をして吊り革につかまっていると、みんなに定期券をジロジロ見られるというりっぱな欠点もある。（案・大橋佳代子／黒田紀子）



居眠り用頭部支え器

電車でゆっくり眠りたい方、必携のおやすみグッズ。

電車に乗ってこっくりこっくり。気持ちいいのはわかるけど、寄りかかられたとなりの人は迷惑至極。でもこの頭部支え器さえあればもう安心。頭は吸盤で窓ガラスにしっかり固定、枕もついているから、姿勢よくゆっくり眠ることができる。ただし、電車が大きく横ゆれしたときに、窓ガラスに頭をぶつける心配がある。それに、急ブレーキをかけた場合、隣に座っている人が慣性でぶつかってくることにも十分注意したほうがいいだろう。（案・新明善三）



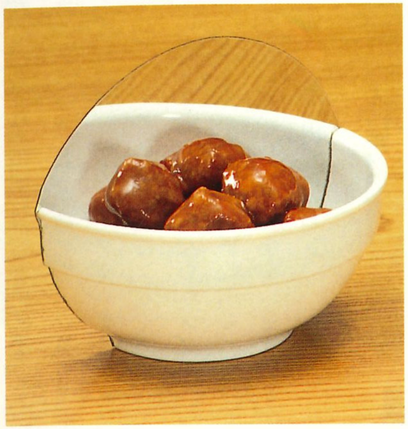


シェイプアップ
ダイエット食器

ダイエットの基本、品目を多く量を少なくが実践できる。

食欲は、空腹感だけから生まれるのではない。嗅覚、視覚などの要素があいまって「おいしそうっ！」となる。とくに食事をはじめて腹八分目、このくらいでやめておけばいいのについおはしが出てしまうのはなぜか。頭ではわかっているのにやめられないのはなぜか。多分に〝目〟がほしがるのである。どんなにダイエットしてもおいしいものが目の前にあるとついついいただいてしまうのが人情。かといって、最初からほんの少ししかおかずを食卓にならべないとなると、これまた寂しいもので、心理的によくないし消化にも





悪い。

　そういったわけで、この鏡張り食器の登場となる。ふだんの半分の量しかいれてないのに、ちゃんと一人前の量に見える。これなら寂しいダイエット、悲しい食事をしなくてもすむし、心理的な満腹感も得られる。

たしかに食べはじめると2倍のスピードでなくなっていくのはショックだが、そのぶんゆっくり噛んでいただくくせをつけることもできる。ダイエットは、まず心の持ち方からはじまるということを忘れてはならない。

　なお、ダイエットしていない人には、来客時、おかずの量が2倍になるぜいたくな食卓を演出する『見栄食器』としてお使いいただくこともできる。（案・金子耕三）

足首スリムアップサンダル





足のフォルムは足首で決める。

多少ダイコン足気味でも、足首さえしまっていれば、かえってグラマラスに見える。そこで、足首を効果的にシェイプアップするのが、このカカトのないサンダル。つねに、つま先にからだの重心をもっていくため、足首だけでなく、全身の運動にもなりそう。（案・田野倉清）



肥満警報椅子



つい食べすぎる方に、ぜひ座っていただきたい椅子。

肥満の原因は、なんといっても食べすぎ。なにしろ、食べすぎなければ太ることはない。太りたくない、と思っていても、目の前にごちそうがあれば、つい手が出る。そんな方はこの椅子に座っていただきたい。下面のスプリングで設定した体重を少しでもオーバーすると、トゲがお尻に刺さる、痛い痛い椅子だ。（案・田村幸三郎）

ルーペつきスプーン&フォーク



苦しいダイエットの強い味方。食べものが2倍の大きさに見える。

2倍の大きさに見えるルーペを、スプーンとフォークにつけた。すると、いただこうとするものが、2倍の大きさになる。小ぶりのケーキでも、ボリュームたっぷりに見えるわけ。そこで、視覚的には大満足、喜び勇んで口まで運ぶ。とたんに、アレ、小さいぞ、とガッカリしてよけいに空腹感を覚えるのが唯一の難点だ。（案・田辺正勝）

あげ底茶わん

てんこ盛りのごはんに満足。

お茶わんに半分、とか3分の1に盛られたごはんは寂しい。なんだかみじめな気持ちになって、消化にもよくない。そこで、このあげ底茶わんを。これで半分のごはんも山盛りに見え、気分だけは十分満腹になれる。（案・ユーモア発明クラブ）



エクササイズ中華鍋





テレビでもみながらバランス感覚を養う。

中華鍋の上に洗濯板がついていて、その上に乗っているだけで、平衡感覚が養える家庭用エクササイズマシンだ。これからの世の中、体力と知力のバランスがものをいう。しかし、年々衰える体力とからだのバランス感覚、知らないうちにガックリ落ちている。鍛え直したいけれど、はやりのスポーツクラブは会費が高いし、だいいちめんどう。そんな横着もののために考え出された……わけでもないが、これなら家庭でテレビでもみながら特訓できる。前後左右にグラグラ揺れるため、運動量がけっこうあるし、洗濯板のギザギザが足の裏のツボも刺激してくれる。（案・田島幸悦）

KIKUZO HAYASHIYA

珍道具トークライブ



珍道具でみんなを仰天、大笑いさせたい。

林家木久蔵さん

必要に迫られて思いつく珍道具もある。

こんなでたらめな企画も、単行本をだすまでになったんですね(笑)。最初のころは、そんなに反響もなかったみたいなのに、やっぱり時代が変わってきたというか、世の中平和なんですね。

僕も発明は大好きで、この珍道具でも何点か自分自身の作品を取りあげていただいているけれど、僕の作品はわりと実用性がありそうな、珍道具というよりもアイディア商品に近いものが多いかな。でも、遊び心はちゃんと考えて、アイディアは練っています。

この本のパート1に掲載してもらった「二口同時きゅうす」。これは僕が寄席





▲**二口同時きゅうす**　寄席の楽屋で、たくさんの人にお茶を注ぐ実用派珍道具。(PART 1　145ページ) ▶**頭髪自信スタンド**（PART 2　192ページ）

の楽屋で働いていたときに考え出したもの。楽屋ってたくさんの人がくるから、ほんとうに何回も何回もお茶をいれるのがたいへんで、どうにかしていっぺんに2個注げないかな……って思ったのがきっかけで、知り合いの焼き物やってる人につくってもらったの。これとね、日本人にお茶ってかかせないものでしょう。だから、お茶にかかわるものでユーモラスなことできないかなって、いつも考えていたんです。これは、注ぐときって、とかく緊張してしまうけれど、こういうおかしなものがあれば、会話のきっかけになって話も弾むし、緊張感もほぐれるでしょう。

「食」は珍道具のアイディアの宝庫。

みなさんの作品も、ユーモラスな作品が多いけれど、僕が気にいったのは「みえっぱり弁当」。僕も似たようなこと考えていたんです。僕の場合はどんぶりのふたの端にえびのしっぽがついてるやつ。これなら、どんぶりの中身がごはんだけでも、ふたをかぶせれば豪華な天丼にみえる。いつもは捨てちゃう、えびのしっぽを使うだけだからお金はかからないし。「弁当」のほうはサンプル買わ



なきゃいけないでしょ。まあ、材料費の問題からいったら、僕のアイディアのほうが上いってる(笑)。

やっぱり食に関するものってアイディアが出やすいし、おもしろさの度合いも大きいですよね。「電動回転フォーク」も楽しい作品で、じっさいは使えそうもないけれど、スパゲティなんか食べるときにはいいだろうなって、ふと考えてしまう。これってアイディアもおもしろいけれど、フォーク本来のデザインを崩していないってのもすぐれているね。だから、もともとこういうものがあったような気がしてて、じつはなかったという盲点にも気づくし。けれども、歯ブラシ2本背でくっつけて、上下で磨ける「上下同時歯ブラシ」ってやつがあったでしょ。ああいうのは逆に、かっこ悪いと思っちゃう。つまり、1本のデザインがきちんとしているのに、その形を大幅に崩しちゃうのはおもしろくないよね。





▲**みかんむき親指**　これでみかんをむけば爪が黄色くならない。(PART 1　23ページ)▶**横寝用めがね**（PART 2　16ページ）

もうひとつ、食に関する珍道具でおもしろいと思ったのは「みかんむき親指」。どうせならもっとデザインに凝って、赤、青、黄色、緑とカラフルなものにして、5本ぐらいのセットにすればいい。用途もみかん用、皮の厚いいよかん用、薄皮むくのがむずかしい桃用とかわけてね。そうしたら、もっと楽しいものになるし、実用で使えるかもしれない。

大勢の人が笑いだすような仰天珍道具がいい。

ほかにも、じっさい使えそうなものはいくつかあって、いいアイディアだなと思ったのは、「横寝用めがね」。これはいいですよ、じっさいほしいっていう人いるんじゃないですか。ただ、頭のバンドのところが人前では恥ずかしいかな。でも、帽子かぶっちゃえばわかんないか。これはいいよね。素材もシンプルだし。やっぱりさりげないものがいちばんいいと思う。

これは提案だけどさ、考案者の発想法も紹介したらおもしろいんじゃないかな。まず、ひらめくところからはじまって、試行錯誤を繰り返して、こういう珍道具になったっていうプロセスをイラストなんかをまじえて紹介するの。た



PROFILE

はやしや・きくぞう

落語家。ユーモア発明クラブ会員。全国ラーメン党会長『珍道具コンクール』審査員。日本珍道具学会名誉会員。高座にテレビにと活躍中。著書に『なるほど・ザ・ラーメン』、『天狗印 元気乃素』など多数。

あいもない考えから、こんなとんでもないものができましたっていう、ギャップがおもしろいと思うし、読者の方にも楽しんでもらえるんじゃないかな。

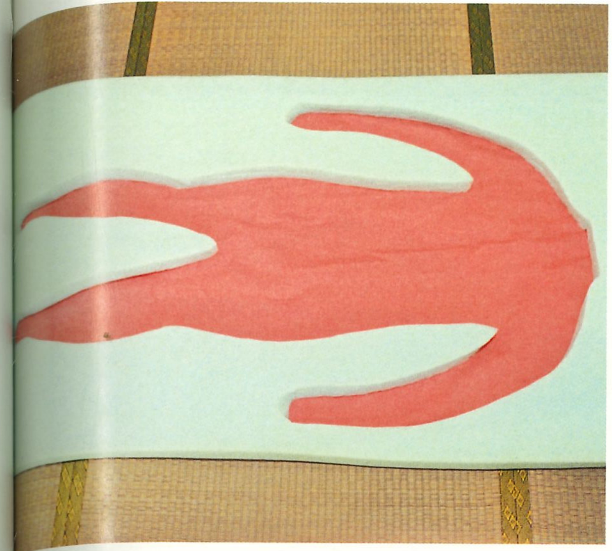
どうせ、役に立たないものをつくるんだったら、みなさんにとてつもない仰天珍道具をつくってもらいたいね。アメリカで何年か前に話題になった、恐竜の足跡みたいにね。あるいたずら好きの人が恐竜の足だけつくって、雪の降った日にふたりがかりでその足を持ちだして、雪の上に足跡をつけていったの。そうしたらつぎの日大騒ぎになって「沼から恐竜がでてきて、また沼に戻っていったぞ！」って、みんながびっくりしたっていう馬鹿〳〵しい話があった。とても単純な発想から、街中が大騒ぎするようなことになるのってすごいよね。まあ、事件になっちゃったら困っちゃうけど、珍道具考える方も何気ない発想から、大勢の人がいっぺんに笑いだしちゃうような、びっくり仰天の珍道具をつくっていただきたいですね。

本文中の「二口同時きゅうす」、「電動回転フォーク」、「みかんむき親指」はPART１掲載。

健康

寝相矯正マットレス





寝相の悪い人がおとなしく寝られるように。

寝相が悪くて夜中に布団を蹴飛ばして風邪をひいたり、おなかをこわす人はけっこう多い。隣に寝ていたご主人に蹴飛ばされて鼻血をだしたとか、隣の人が掛けぶとんをはがして持っていってしまい、風邪をひかされてしまったとか、各地でさまざまな悪い寝相による事故の被害が報告されている。しかしどんなに注意しようと、本人は眠っているのだから怒りようがないし本人もなおしようがない。なにしろ本人もあずかり知らぬところで起こっていることなのだから。

そんな人のために考えられたのがこのマットレス。からだがすっぽりとマットのなかに埋まってしまうので、どんなに寝相が悪くても姿勢が変えられない。これなら寝ているときも暴れずにすむし、寝冷えから解放されるというものだ。保温効果も高いので防寒の役割も十分果たしてくれる。寝相の悪いご主人にぜひ一枚。

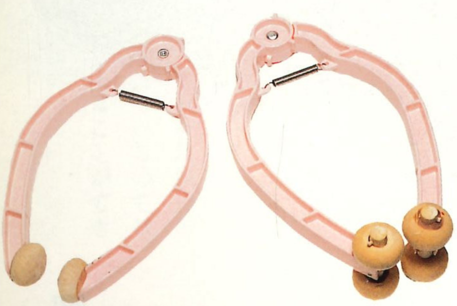
ただし寝返りがうてないため、朝起きたときに疲れているのがちょっとした欠点。また、起き上がって暴れてしまうほど寝相の悪い人には役に立たない。（案・高羽文雄／岩本薫）



同時ツボ押しマッサージャー

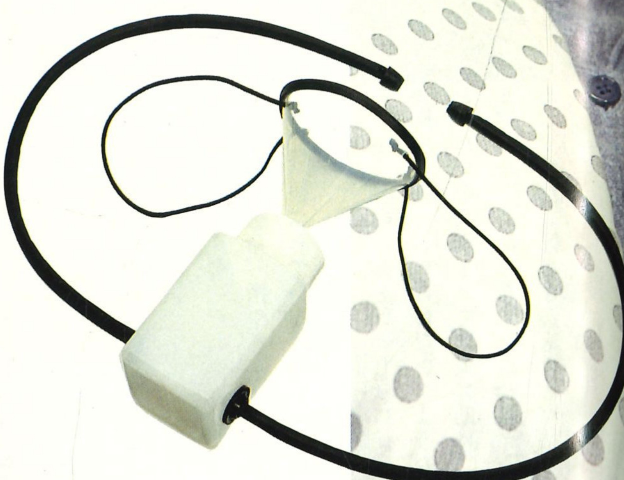
両面からはさむので最小限の力で効果が期待される指圧器。

ヘッドフォン型の指圧器は、頭にはさんでおくだけで耳のツボを刺激してくれる。これが頭痛や寝不足によく効く。これをつけて横になれば、不眠症で悩んでいる方もまもなく気持ちよく睡眠にはいれるようになる。もうひとつのマッサージャーは、腕やおなかなど、痩せたいところをはさんでゴロゴロ。スプリングを変えることで強弱を自在に変えられる。マッサージャーを動かす腕の運動量も大きいので倍の効果が期待できる。ただし、いくら形が似ているからといってふとんばさみでマッサージしてもムダなので念のため。（案・海野文夫）



いびき矯正器





大きないびきのお父さんも、自分のいびきで目が覚める。

いびきほど周囲の人に迷惑をかけるものはない。しかも本人がそれに気がついてないだけになおタチが悪い。そこで威力を発揮するのがこの矯正器。聴診器のような2本のパイプを耳にはめて寝る。いびきをかくとそれが集音器を通して自分の耳に届くというわけ。

これで、ふだんはほかの人を悩ましているいびきに驚いて、今度は自分が目を覚ます、なんとも公平な話だ。しかも繰り返し装着していると、自分のいびきがうるさいから無意識のうちに気をつけるようになるというわけ。これこそ社員旅行の必需品。いままで、人に迷惑をかけているのでは、と心配だった人も安心して人前で寝ることができる。（案・ユーモア発明クラブ）

頭髪マッサージ器

ハゲの人と、これからハゲてくる予定の人に朗報。



髪の毛の薄い人は、自分でもとても気にしている。若い人では、20代前半から髪が後退しはじめるのだから、気にするのも無理からぬことだ。シャンプーのたび、髪をとかすたびに櫛に残った毛の数を数え、季節の変わりめに抜け毛を気にし、心休まる暇がない。とくに家族や親戚にハゲの多い、いわばハゲの家系に生まれた男性は、若いうちから戦々恐々とした毎日を送っているはず。

髪の発育を助けるには、頭皮、毛根に刺激を与えるのが効果的、というのはよく知られている。そこでこのヘルメット、上についたバイブレーターが、内部の突起物を振動させる仕組みになっている。そのため、櫛状の突起物が毛根と頭皮をとんとんと叩いて刺激し、毛髪の発育をうながしてくれる。つまり、一生懸命、指やブラシでマッサージするかわりに、かぶっているだけでハゲが治るマッサージ器なのである。

中国製の101などの薬品といっしょに使用すれば、鬼に金棒、治らないわけがない、ような気がする。まさにハゲの人にとっては天の助け、神の福音である。ほんとに治るなら、これはノーベル賞ものである。ただし頭皮を蒸らすと、抜け毛の原因になるが、このヘルメット、かぶりつづけていると頭皮が蒸れてしまう恐れがあるので、ちょっと心配。（案・山上武之）







はだし健康靴



はだし中敷&靴下

小石の刺激がたまらない、しかもだれにも気づかれない。

いまや都会はアスファルトとコンクリートばかり、ほんものの地面なんか、ほとんど見られなくなってしまった。あの、小石を踏むはだしの快感はどこへいったのか、と嘆く自然派志向の方にはこの中敷と靴下がおすすめ。地面そのものを中敷にしてしまったから、いつだって足は大地をしっかり踏みしめていることになる。地面の種類を自分で選ぶこともできて、ハード派には大きな石の、ソフト派には小さな石の中敷がいい。都会生まれの子供たちにも、ぜひ使っていただきたい。（案・鈴木英子）





いつも足の下に大地を感じていたいナチュラリストに。

足の裏は第二の心臓などともいわれ、健康に大きな影響を与えるから、はだしで歩くのはとても健康にいい。からだにいいのはわかっていても、サラリーマンが街のなかをはだしでペタペタ歩くのは近所や世間の目もあるし、ちょっと気がひける。

そんなことでお悩みの方がいたらおすすめしたいのが、この靴底のない健康靴。歩きごこちはとても自然。しかも靴底がすり減る心配もない。人知れず大地の感触を楽しみながら歩くことができる。地面の感触が足の裏から脊椎を通って頭まで届き、血行を促し、脳を適度に刺激し、なんだか健康になったような気がするから不思議だ。ただしこの靴で火の上やガラスの破片の上など歩かないように気をつけたい。

また、うっかり油断して電車や公園のベンチで足を組むと、抜けた底から足の裏が見えてしまうからご注意。ちかごろ、からだにいいこと、健康のためになにかしていることをやたらに誇示する人が多いが、そんな風潮を好ましく思っていない控えめな人にぜひおすすめしたい、謙虚な健康法である。（案・山田佳子）

外反母趾防止ハイヒール



痛くて不健康なハイヒールとさようなら。

外反母趾で悩む女性はじつに多い。女性のおしゃれが生み出した現代病のひとつである。たかが外反母趾と高をくくってはいけない。ひどくなると手術が必要になることもあるのだ。それでも、爪先のつんとしたおしゃれなハイヒールをはきたいというのが女心。

そんな女心にやさしくお応えするのがこの靴。これなら外反母趾の人も、外反母趾を心配している人も、もう安心。親指がすっぽり靴からだせて親指を圧迫することがない。小指の部分も開いているから足はらくちん。歩くたびに痛かったあの外反母趾に別れを告げられるのだ。窮屈な思いをせずに、どんなに細いハイヒールでもはける。ただし、靴の外に足が出ているため、ぶつけないよう、注意が必要。（案・星和江）



万噛み計





現代人の弱点、あごと歯を丈夫にする。

最近の食べものはハンバーグとか、グラタンとか、やたらとやわらかいものが多い。これに慣れてしまうと歯やあごはどんどん弱くなるいっぽう。最近の子供のあごが弱くなっているのも、食べ物が原因といわれている。いくらからだを鍛えても歯やあごがボロボロじゃあ、みっともない。

健康のためには小魚などのカルシウムの多い食物をパリポリいただきたい。しかし、もっと積極的にあごや歯の健康を考えている方には、この万噛み計がぴったり。

これこそ、あごの運動量を増やすための健康機器。昔から食事のときはよく噛むように、ひとはしのごはんを最低30回は噛みなさい、といわれたものだ。それを実践するための道具である。これなら噛んだ回数もちゃんとわかるから、からだにいい。ごはん一膳を20口でいただくとして６００回。おかずで５００回、と足していくと、一食につき約２０００回は噛まなければならない。ごちそうさま、と食事をすませて万噛み計のカウンターが目標の数字に達していないときは、お茶でも口に含んで不足回数ぶんをカチカチと噛めばいい。これで消化、吸収もだんぜんよくなり、あごと歯も、もっと丈夫で強くなる。二重あごのシェイプアップにも役に立ちそうだ。外食をするときに使えば、まわりの注目を浴びることは間違いない。

（案・佐久間章）

マジックルームランナー

部屋にいながら足腰を鍛えるお手軽ルームランナー。

床に置いたマジックテープつきの台の上で足踏みすると、スニーカーの底にマジックテープがついているため、はがすのにとても力がいる。ばりばりと音を立てて足踏みすると脚力がつくという仕組み、いわば家庭でできる即席ルームランナーだ。スポコンドラマの主人公の鉄下駄、古タイヤのかわりに使えるし、しかも場所を取らないところが魅力だ。運動部で活躍するお子さんをもつ家庭の必需品。

部屋のカーペットをすべてマジックテープにしてしまえば、家中どこでもトレーニングルームになる。家事をしながらエクササイズが楽しめる。なにより、家族そろって手軽に健康づくりにいそしめるところがいい。（案・ユーモア発明クラブ）







平衡感覚強化ぞうり

バランス感覚づくりのためのぞうり。

はいて歩きまわれば平衡感覚がぐんぐん強化される、一輪車でも体操の平均台でも自由自在！　となるはずの不思議なぞうりだ。その秘密は底にあるおわんのような半球。ほとんど玉乗りをしているようで、じっとしているほうがむずかしいから歩かざるを得ない。運動不足をなげくまえに、簡単な運動を日ごろからできる範囲で生活のなかに取り入れたい。そこで、ちょっとおつかい、なんてときもこれで歩けば、いつの間にか体操選手なみのバランス感覚が養われる。平衡感覚強化スリッパをつくって、家のなかで掃除や料理のときにもはいていれば、さらに感覚がとぎすまされる。（案・佐野宣幸）





指先だけ靴下

シモヤケ防止、冷え症対策の靴下。水虫にもいいかもしれない。

寒い冬、血行のよくない足の爪先が痛いほど冷えてくる。そのまま放っておくとシモヤケだ。ところが靴下は、つま先からくるぶしまですべて同じ厚さの布でできている。これこそ不合理なことだ。冷える部分には、より以上の保温性がほしい。そこでこの冷たいつま先だけを保護してくれるソックス。この上からもう一枚はけば完璧。似たようなのがじっさいに売られていると聞いたこともあるが。（案・山本素代）

指圧手袋

肩のツボにも手のひらにも気持ちいい。

イボイボのついた〝健康サンダル〟があるならイボイボのついた手袋があってもいい。ということで考えられたのがこの〝指圧手袋〟。これで肩凝りや腰のツボを押さえたら気持ちいい……そこまではだれもが考えること。この手袋の本領はその先。手袋を裏返して手にはめると、今度は手のひらのツボを刺激してくれる。（案・海野文夫）



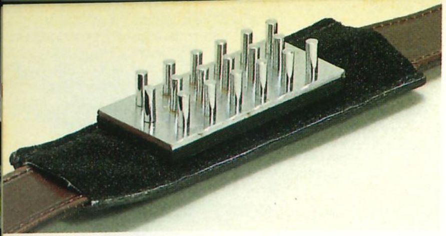


百会のツボ刺激帽子

頭のてっぺんを太陽エネルギーで刺激。

人間のからだのなかでも頭のてっぺんの百会のツボは、からだと頭と心にいい重要なツボだ。ここを刺激すればいいのはわかっているけれど、頭のてっぺんにあるだけに、簡単には刺激できない。

そこで帽子のてっぺんにレンズをつけてみた。これで太陽光線を受け、百会のツボに焦点を結んで、その熱でお灸をしようというもの。歩きながらツボの刺激ができる健康帽子だ。夏の日中がいちばんきき目があるけれど、頭のてっぺんから煙をだしながら歩くことにならないように気をつけたい。（案・花木要）



ショルダーバッグ指圧器

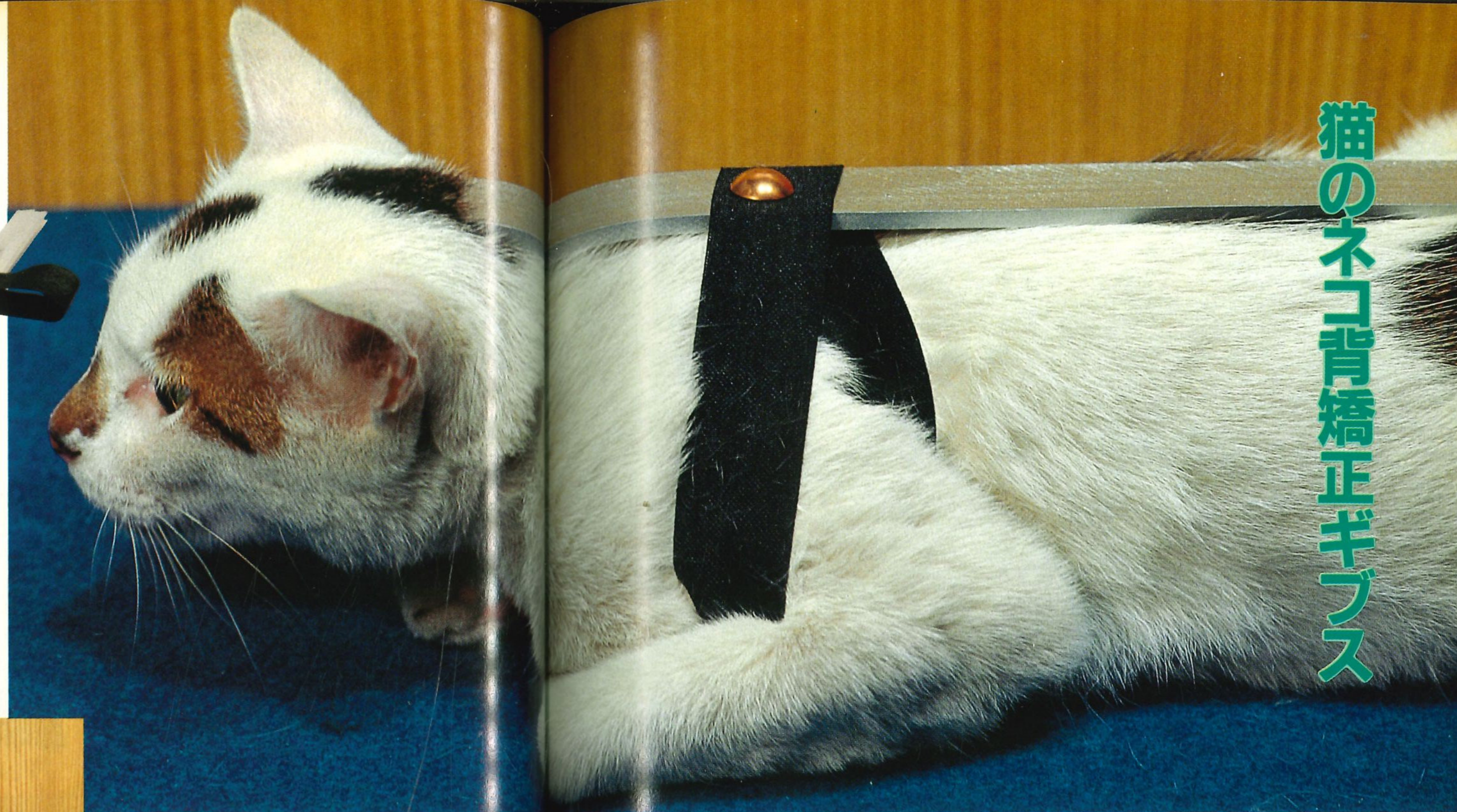
発想を転換、肩凝りの原因になる荷物の重みで肩凝り解消。

肩凝りで悩む人は多い。ＯＡ機器の普及、テレビやビデオのみすぎによる眼精疲労、冬の寒さばかりでなく、夏の冷房も原因になっている。さて、肩凝りの原因のひとつに重い荷物がある。買い物袋や通勤のバッグ。ひとつひとつはたいしたことはなくても、毎日のことだからいつの間にか、からだに負担を与えているのだ。その荷物の重さを利用して、肩凝り解消の道具を考えてみたのがこれ。

バッグのベルトの裏側に突起がついているから肩に掛けているだけで荷物の重みが肩をマッサージしてくれる。荷物が重ければ重いほどマッサージ効果が上がるという便利モノだ。（案・吉原京子）







猫のネコ背矯正ギブス

猫が背筋を伸ばして前向きに生きるための必需品。

生き物はなによりも姿勢がたいせつ。生き方がその姿勢にあらわれているといってもいい。いくら猫だからといって、背骨の曲がった、悪い姿勢のままでいいわけがない。背中が丸まっていると、どうも消極的で暗い性格になってしまう。背筋がしゃんと伸びれば気持ちまでシャキッとして、明るくいい猫になれるはず。というわけで、これは丸まった猫の背中をまっすぐにするための矯正ギブス。

使い方は簡単。プレートについた8の字型のベルトに前足を通し、腹部をマジックテープで固定するだけ。一日わずか10分間使用すれば、だれにも気づかれずに劣等感が克服できる！　これだと背筋を伸ばしたまま散歩もできるし、このギブスが普及すれば、前向きな性格の積極的な猫が街にあふれるはず。それに反対向きに装着すればハト胸だって治ってしまうかもしれない。猫だって世間に対していつまでも上目づかいでいいわけがないのだ。

ただし、ネコ背を治してあげたからといって猫が感謝するかどうかは聞いてみないとわからない。（案・谷合純子）



水虫用スパイク

かゆい足でも野球ができてうれしい。

中年男性にとっては、野球と水虫は切っても切れない仲、というのはちょっと強引だけど、どちらもオジサンとの関係が深いのはたしか。かわいそうなのは、水虫もちで草野球を趣味にしている人。あのスパイクは、水虫の大敵、そのかゆさたるや、拷問にも等しい。そんな選手のためのスパイクがこれ。風通しよく、かゆいときはすぐかける。もちろんゴルフシューズとしても最適。ただし、すべりこみのときには注意が必要だ。(案・ユーモア発明クラブ)



青竹踏み下駄

青竹を持ち歩かなくても、いつでも踏んでいられる。

さまざまな健康法が流行しては消えていったけれど、青竹踏みなどは定着した数少ない健康法のひとつ。でも、その青竹踏みでさえ欠かさず実行できる人は少ない。だから竹そのものをはきものにしてしまえば毎日踏んでいられる。これで土踏まずを刺激すれば、足が軽くなるにちがいない。(案・ユーモア発明クラブ)



洗面所

アウトドア風トイレ



大都会の狭い密室にいながら、野性味が体験できる。

自宅のトイレにはいると、なぜか心が落ちつきくつろいでしまう人が多い。本を読んだり、アイディアをひねったりと、そのくつろぎ方もさまざま。用をたしたあとも、ながながと出てこない人もいる。そんなトイレ愛着派にもってこいなのがこのアウトドア風トイレ。便座に人工芝が張ってあるので、狭い密室にいながら広大なアウトドアの気分が満喫できる。お尻にザラザラする人工芝の感触が、忘れ去った野性の本能をあざやかに甦らせてくれるのだ。小鳥の鳴き声やせせらぎなどの環境音楽を流せば、演出効果もバッチリ。ムード満点で、大自然に包まれながら用がたせる。

ただし、芝の葉先で敏感なお尻を傷つけないよう座らねばならない。ちょっとでも動けばスリ傷確実。野性というものは、つねに危険をともなうのだ。(案・古野まゆみ)

臨時女子トイレ

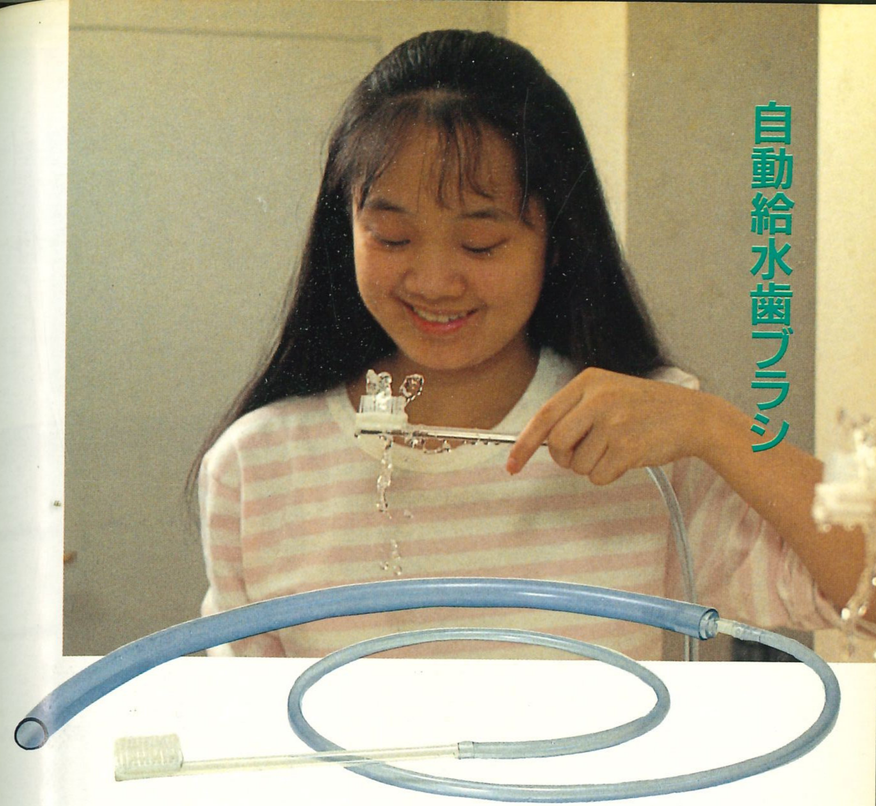
すべての女性必携！
女子トイレの行列解消看板。

公衆トイレは、女性用と男性用の面積が同じ比率で設置されているところが多い。男性用には小便器がズラリとならぶけど、女性用はもちろんすべて個室。そのため、収容人員に差が出てしまう。だから女性用トイレは回転率が悪い。必死でトイレにたどりついても、女性用はきまって長〜い行列。目的地が目の前にあるのに足どめされるから、なおさらがまんができない。隣の男性用はガラガラ。それを見るとさらにがまんができない。

そんなとき、この看板を男性用トイレにかければ問題は解決する。男性用が女性用トイレに早変わりするので、順番を待たずにどうどうと思いがとげられる。ただ、看板をかけるタイミングがむずかしい。うっかりするとあとからきた人に先を越されることになる。男性用には個室が1室という場合もあるから、ご注意。（案・白石美雪）







自動給水歯ブラシ

歯を磨いたあと、コップなしで口がすすげる。

この歯ブラシを使えば、歯を磨き終わったら、蛇口をひねるだけで口がすすげる。

歯ブラシから伸びたチューブが、シャワーのように蛇口につながっていて、ブラシのなかから噴水のように水が出る仕掛け。これさえあれば、コップを使わずにすすげるわけだ。

ブラシについた、歯磨きの残りや食べ物のカスも、いっしょに流してしまうので、歯ブラシを洗う手間も省ける。こびりついた歯磨きが、白く固まっているのは、自分で見ても不快だし、第一、非衛生的。その点この自動給水歯ブラシを使えば、毎朝毎晩、快適な歯磨きができる。ただし、噴出させる水の量の調節がむずかしく、へたをすると口から水があふれ出て、最悪の場合汚れた水を飲みこんでしまう。（案・渡辺直樹）



上下同時歯ブラシ

上下べつべつに磨く時間の半分の時間で歯磨き完了。

歯磨きの効率を徹底的に追求した歯ブラシ。柄の上下にブラシがついているため、これでゴシゴシやれば、上の歯と下の歯が同時に磨けるという次第。歯を磨く時間が半分に短縮できるので、忙しい朝にはとてもありがたい。これさえあれば、朝寝坊だってタップリ楽しめる。欠点といえば、歯の側面を磨くとき、口のなかをこするので少々痛いことぐらいだ。（案・清家徳子）

指先歯ブラシ

携帯性バツグン。親知らずもピカピカ。

歯ブラシの柄をなくし、指サックに直接ブラシをつけたもの。指が柄のかわりをするから、歯のコンディションにあわせて1本〳〵きめ細かく磨ける。力の強弱が微妙につけられるので、ムシ歯があれば、その歯だけソフトに磨いてやればいい。ただ、これに似たものが市販されているらしい。（案・ユーモア発明クラブ）





鏡つき洗面器

洗顔中の自分の表情を、ちゃんと見ることができる。

お化粧はちゃんと落とさないと気持ち悪い。かといって、いちいち鏡で確認をしていたら、水であたりはビショビショ。そのつどタオルを使うのもめんどうだ。けれども、これさえあれば鏡を見るために顔をあげる必要はない。洗面器の底に鏡が張りつけてあるため、顔の状態を一部始終確認しながら顔が洗える。唯一の欠点は、水の屈折率で顔が歪んで見えることだ。（案・吉入育子）





身だしなみ

ティッシュつきマスク

ファッショナブルでコンビニエント、手でサッと引き出せる。

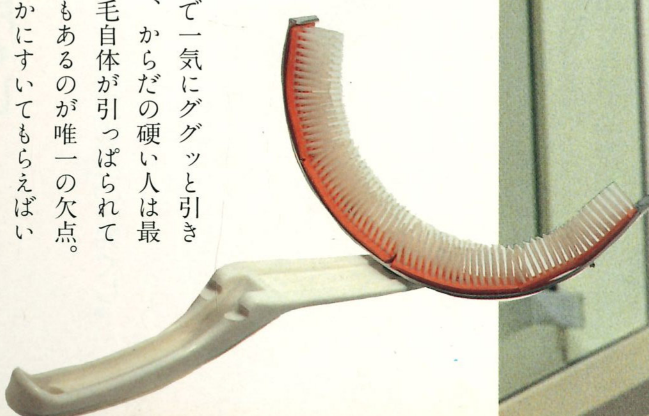
最近花粉症の人が増えてきて、マスクはカゼをひいたとき以外でも使われるようになった。花粉症は春から初夏。マスクの活用期間も大幅に延長されたことになる。こうなれば、マスクもファッションのひとつとして選びたい。病的な白マスクはうんざり。ということで、花柄プリントのマスクを用意した。ついでにティッシュペーパーがはいるようにしたら、これが便利。鼻がグズグズしてきたら、マスクからズルズル引き出せばいい。ティッシュを忘れることも、探しているうちに手遅れになることもない。人前で引き出すのにはちょっと勇気がいるけど、鼻水をたらすよりましだろう。（案・富江美智子）

一発ブラシ

一瞬にして髪型が整うので、ゆっくり朝寝坊できる。

たったのひとすきでピタッと髪型が整えられる秒速ブラシ。あっというまにブラッシングできるから、忙しい朝などにとっても便利。とくに、何度も何度もブラシを入れなければいけない、サラサラロングのストレートヘアの人にはだんぜんおすすめ。クセものでコシのあるわがまま寝グセもスタイリングローションをシュッシュッとかけて、サッと一発、すいてやればOKだ。これで、出かける寸前まで寝ていられる。

ブラシをアーチ状にするという、ブラシの常識をくつがえした画期的なデザインを得たことが、このブラシを生みだした。使い方は簡単。ブラシを頭にあて、頭がい骨にそいながら毛先まで一気にググッと引きおろすだけ。ただし、からだの硬い人は最後まで引けず、髪の毛自体が引っぱられて痛い思いをすることもあるのが唯一の欠点。そんなときは、だれかにすいてもらえばいい。（案・雪田みさこ）





真空耳掃除器



外耳をキズつけないので安心。

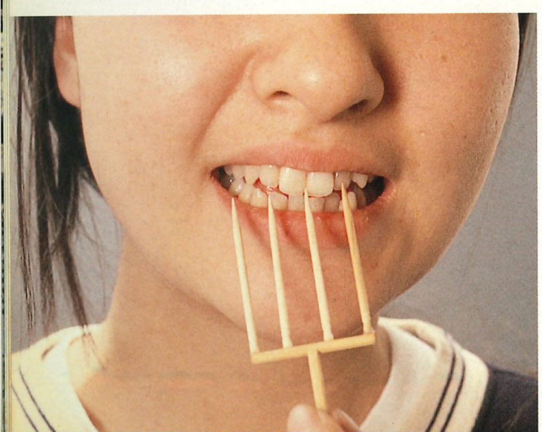
真空掃除機の原理を応用した耳そうじ器。簡単にいえば、耳アカを口で吸い取ってしまおうというものだ。もちろん、取れた耳アカは、フィルターのなかに溜まるので、口にはいる心配はない。ただし、取れにくいからといって、強く吸いすぎると鼓膜を破る恐れがある。（案・岩本薫）

4本歯ようじ

4本いっぺんに歯のすきまの掃除ができるけど、使い方がむずかしい。

歯にモノがはさまっていると、無性に気になってイライラしてしまう。そんなとき、このようじがあれば、なにしろ、1度の手間で4本の歯を同時に掃除することができるので、たいへん便利。

ただし、歯の間隔がまちまちの場合や奥歯の掃除をするときは、ヘタをするとホッペタや歯茎を突いてしまうので要注意。（案・川上賢司）







爪つき靴下

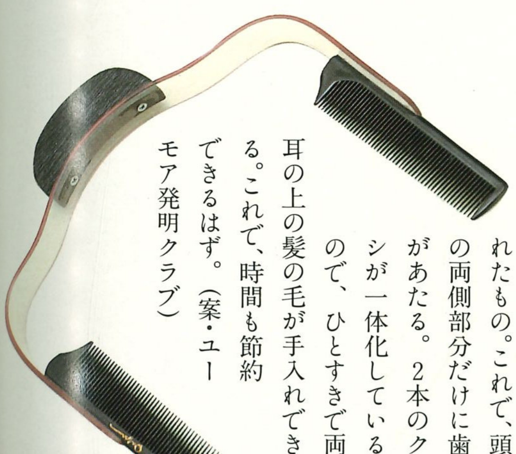
ファッショナブルなソックス。これなら素足感覚で自然に歩ける。

一見ちょっと変態っぽいけれど、バツグンの機能を誇る靴下。とくに、水虫でお悩みの人に最適だ。指が1本ずつ独立しているため、自由度は増し、指のあいだもムレにくい。踏ん張る力も増大するので、力仕事やスポーツに利用価値がありそう。さらに、指に塗られた赤いペディキュアに注目。何色かそろえれば服に合わせて色のコーディネートを試すこともできる。めんどうならそのまま出かけてもいい。（案・角井美和子）

はげ用ぐし

はげおじさん専用設計の一発ぐし。

頭頂部にクシを入れる必要のない人、いわゆるサザエさんの父親、磯野波平氏のような頭をした人のために考えられたもの。これで、頭の両側部分だけに歯があたる。2本のクシが一体化しているので、ひとすきで両耳の上の髪の毛が手入れできる。これで、時間も節約できるはず。（案・ユーモア発明クラブ）



頭髪自信スタンド

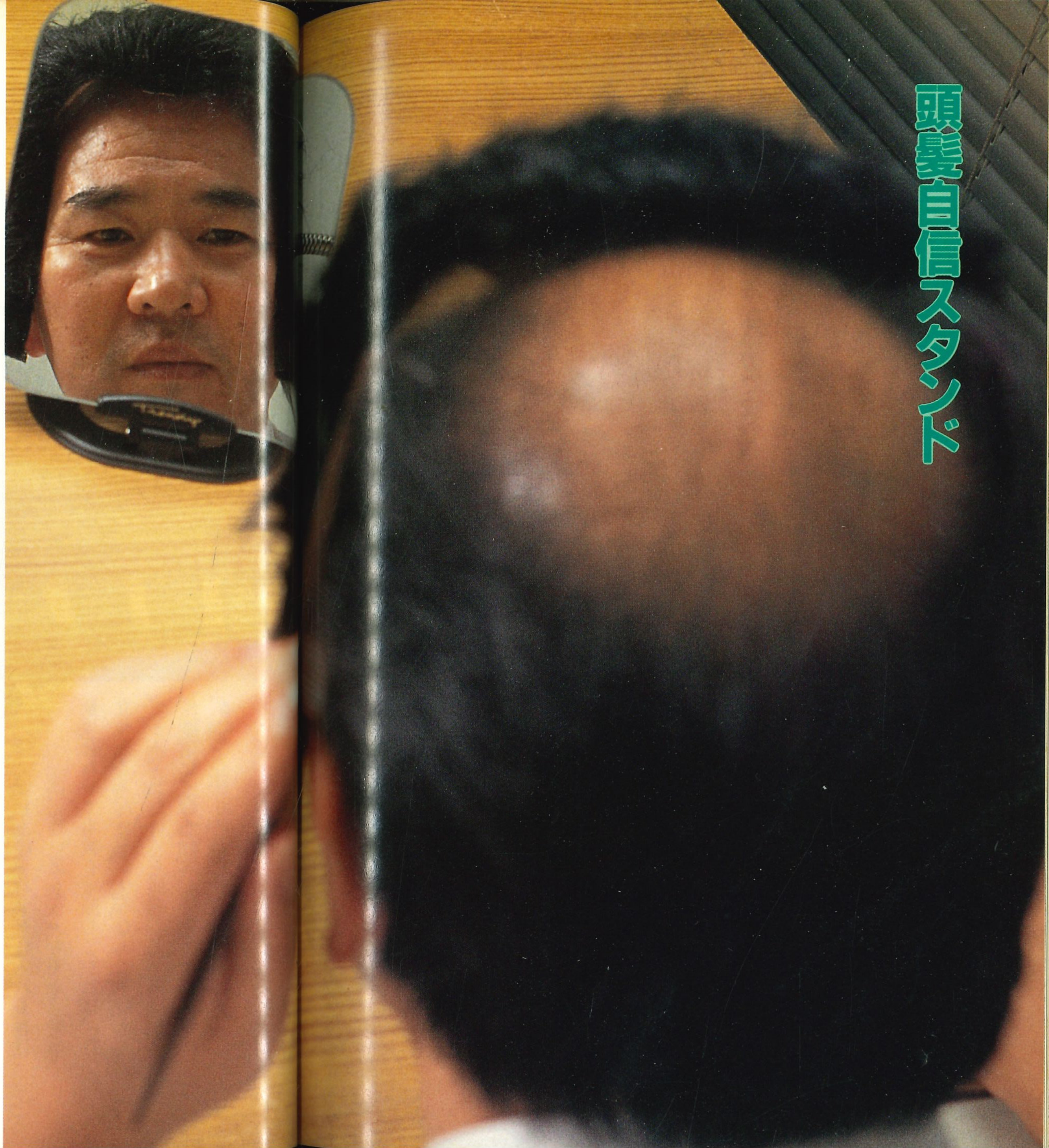
家を出る前にこれを使えば、自信満々、積極的な一日が過ごせる。



髪の毛が女性にとって命なら、男性にとっては髪の毛は自信の源だといえるかもしれない。というのも、髪の毛が薄くなると自信を喪失したり、ついつい消極的になってしまう人が意外と多いのだ。髪の毛が薄くなることで性格まで変わってしまうのだから、これはかなり切実な問題。

そこで登場したのがこのスタンド。これさえあれば、モリモリ自信が回復することうけあいだ。鏡の前にスタンドを立てて、これに額をつければ、前髪をフサフサはやした自分と対面できるという次第。出かける前にのぞいていけば、自信満々で一日を過ごすことができる。

ただ唯一の欠点は、一歩外に出たらぜったいに自分の姿が見られないこと。一瞬でも見たら最後、自信はあえなく消える。（案・棟　孝則）





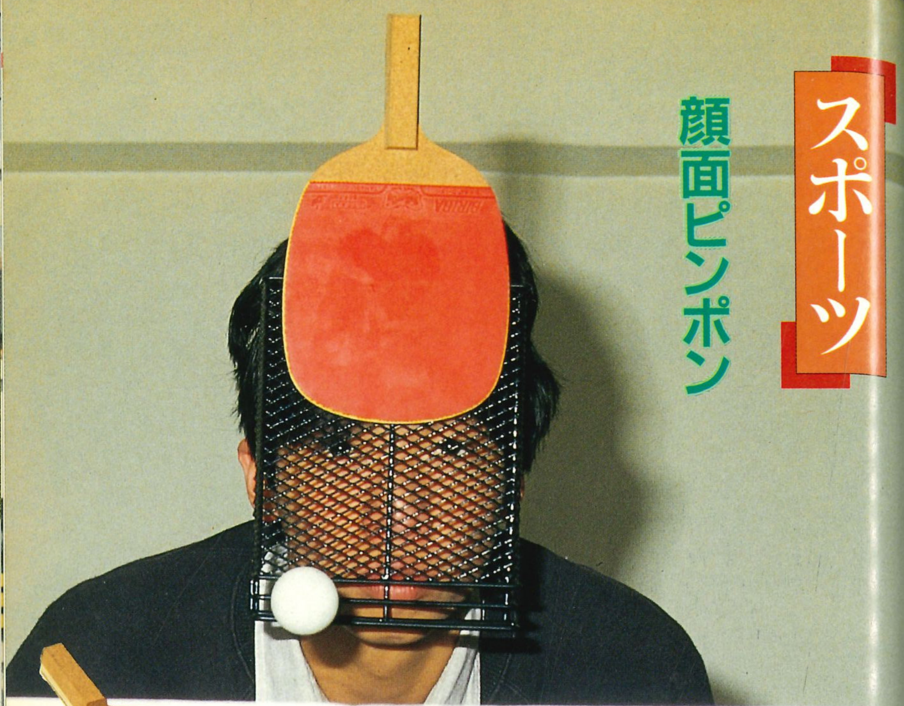


指先グシ

一見不便そうだけど意外に便利。髪自慢の女性たちが泣いて喜ぶ。

外出していて、髪の毛が乱れてしまっては、せっかくのおしゃれもだいなし。だからといって町なかでブラシをだし、髪を整えるのも人目が気になってしまう。化粧室も見つからない……。

そんな悩み多き女性のために考えられたのがこれ。指キャップに小型のクシがついた指先グシ。これを指にはめ、頭をかくふりをすれば、いつでもどこでも髪を整えられる便利もの。バッグに入れておけば、強い風もへっちゃら。髪の量に合わせて本数を増減してやれば、目立つところだけとかす、なんて手抜きもできる。ただいくら便利でも、指につけっぱなしにしていると、変な目で見られるので、ご注意。（案・守屋みなみ）





スポーツ

顔面ピンポン

新スポーツ登場！　これで、楽しく首と顔が鍛えられる。

首を強くすることは、どんなスポーツでも重要課題。過酷で地味な訓練が延々とつづく。

けれども、この新スポーツなら、楽しみながら首と顔を鍛えることができる。ルールは簡単。カゴについたラケットを顔にかぶり、両手を使わずに顔面でピンポンをするだけ。飛んでくる球に跳びこむため、顔面の反射神経や目などが養われる。5分もすれば汗だく、首が動かなくなる。（案・木原健次）

ジョギング中精米器

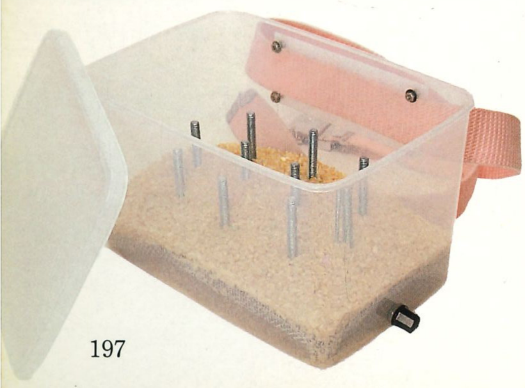
おなかをすかせて、ごはんをおいしくいただく。

健康を保つには、適度な運動とバランスのとれた食事をとることが大切。とはいっても多忙な毎日、思うようにはいかない。そこで考えられたのがこれ。基礎体力を養うジョギングをしながら主食の米を精米する一挙両得健康維持器。これで適度な運動と健康な食事というふたつの条件がいちどに満たされる。

必要な量の玄米を容器に入れ、それを腰につけてジョギングをする。すると、その振動で、玄米が自然に精米され、白米になるという仕掛け。走る距離により、好みに応じて精米できる。もちろん、下に落ちたヌカもヌカ床などに有効利用できる。ザクザクと米の音がしてリズムよく走れるし、米の重さで足腰もいっそう丈夫になる。

これでおいしいご飯がいただけるのだから、健康は約束されたも同然だ。ただし、一家の食事に十分な量の白米に精米するには、3〜6時間走りつづける必要があるので念のため。

（案・木原健次）







ゴルフ練習傘

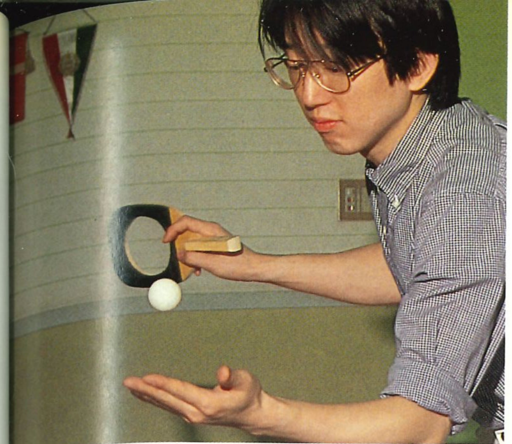
持つ人のセンスのよさが光る、ゴルフ好き待望の超高級傘。

駅のホームで、傘をクラブがわりにゴルフの素振りをしている人をよく見かける。本人はその気になっているのだろうけど、はたから見るとあまりみっともいいものではない。もっとも、手にしているのがただの傘なのだから、こっけいに映るのは当然だ。もちろん、ゴルフ愛好者も、傘ではもの足りなさをひしひしと感じているはず。

ところが、このゴルフ練習傘ならより本格的な練習ができ、まわりの人の印象もよくなることうけあい。傘の先端にあるクラブヘッドはいまやウッドの主流となったステンメタルウッド。曲がりに強い低重心設計だ。傘をさしているときにバランスが取りにくく、そのうえ重いこともグリップを鍛えるのに役立つ？



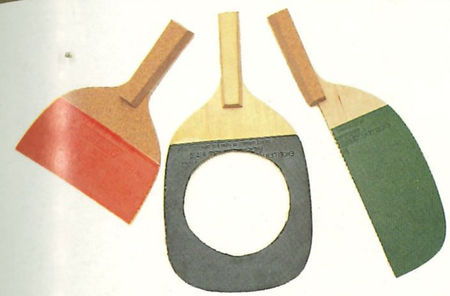
（案・吉田昇／河野ひとみ）



2分の1ラケット

卓球にハンディ制を採用。

卓球は、気軽に楽しめるスポーツ。だけど、上手な人と下手な人がプレイすると、これほどおもしろくないものはない。ゴルフのようにハンディがあれば、と考えたのがこのラケット。面積が2分の1になっているので、実力の差があっても楽しめる。穴あき、縦割り、横割りとレベルに応じたラケットが用意されている。（案・木原啓子）

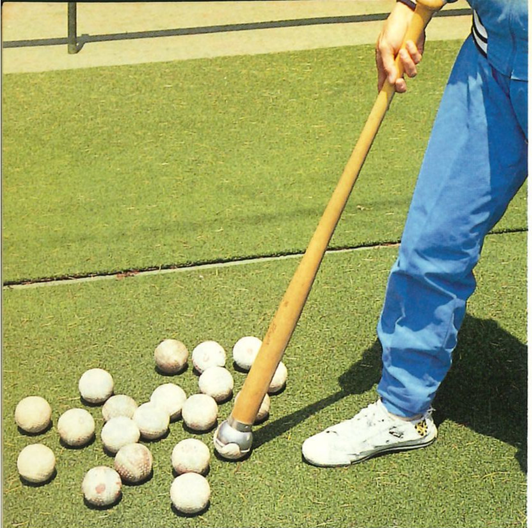


握力強化ばし

豆をつまめば効果絶大。

食事をしながら握力を鍛えるという便利なおはし。これをなんなく使いこなせれば、向かうところ敵なしだ。なんたって、思いっきり握力を使わなければなにも口にできないというシビアなもの。ぐんぐん実力アップすることうけあいだ。豆を一粒ずつつまむと効果は絶大。途中で力つきたり、うっかり力をゆるめたりすれば、ばねの力で食べ物を飛ばしかねない。一度使ったら最後、力は抜けないのだ。（案・堀田哲郎）





ボール拾いバット

腰をかがめて拾う必要なし。

野球の練習でノックをするとき、ボールを手渡してくれる人がいないと、ひとりでいちいち地面のボールを拾いあげるのはたいへん。そのうちうんざりしてくる。そんなときこのバットを使えば、簡単にボールを拾うことができる。バットの先を軽くボールに押しつけてやるだけ。ただ、先端が重たいので、これに慣れると、ふつうのバットでは勘が狂う。（案・金澤陽之助）



芝生ゴルフボール

どこでも練習できる。

練習場所を選ばないゴルフボール。ボールが人工芝に包まれているので、どこで打っても適度に芝の感覚がつかめる。これさえあれば、思いたったとき即パッティングの練習ができる。上達間違いなしの逸品だ。（案・ユーモア発明クラブ）





遊びながら首が鍛えられる。もうムチうち症も恐くない。

いくら自分が気をつけていても、いつ起こるかわからないのが自動車事故。幸い軽い事故ですんだとしても、必ずといっていいほどなるのがムチうち症だ。これから免れるには、首を強くするしかない。ということで考えられたのが、このヘルメット。これでケン玉遊びをすれば、知らず知らずのうちに首の筋肉が強化されるのだ。遊びをとおして、日ごろから首を鍛えておけば、ふいに交通事故にあったとしても、ムチうち症になることだけは防げるというわけ。

試してみると、これがなかなかむずかしい。首を上下に振って玉を受けようとするけど、頭のてっぺんにゴツンゴツンとぶつかるばかり。翌朝首筋の痛いこと。けれども、たしかに効果はありそうだ。

（案・木原健次）



日本珍道具学会に、どんどんアイディアを送ろう！

私たちのまわりにある日用品のなかにも、昔は珍道具だったものがいくつもある。いまでは信じられない話だが、18世紀後半のイギリスで、はじめて傘をさし、街を闊歩したイギリスのジョナス・ハンウェーは、街中の笑い物になったそうだ。この本の珍道具のなかにも、いまは笑い飛ばしているものが、のちにはすばらしい発明品と化すものがあるかもしれない。しかも、いまこれを読んでいるあなたの何気ないアイディアがそうなる可能性を秘めている。これを読んで大笑いしているだけではだめ。いますぐ行動を起こそう！　ぜひぜひアイディアを当学会にお寄せいただき、日本珍道具学会の会員をめざしていただきたい。純粋で、真面目で、突拍子もないアイディアを待っている！

日本珍道具学会会員になるには。

『通販生活』で大好評連載中の「おもしろ珍道具」に珍道具のアイディアをご応募いただいた方が日本珍道具学会準会員、採用され、編集部で作品化した方が正会員となります。また、採用されたなかから珍道具大賞を選ぶ『珍道具コンクール』を年一回行っています。

●応募方法　ハガキか封書に、作品の簡単なイラストと説明、〒、住所、氏名、年齢、職業、☎を明記のうえ　**〒151東京都渋谷区千駄ケ谷3—13—22—509　「日本珍道具学会　珍道具コンクール係」**まで。

『通販生活』購読申し込みは、ハガキの裏面に、①珍道具係、②最新号より1年分4冊、と記入し、③〒・住所（フリガナ）、④氏名（フリガナ）、⑤年齢・職業、⑥電話番号、⑦生年月日を明記のうえ　**〒164—10　東京都中野区中央4—54—11　カタログハウス『通販生活』珍道具係**まで。購読料は1年分600円（4冊）。『通販生活』とじ込みの振替用紙でお支払いください。

珍道具十箇条

一、**実用になってはいけない**
これが珍道具の世界にとっていちばん大切なコンセプト。これが理解できなければ、珍道具を見ても笑えない。

二、**機能をもっていなければいけない**
いくら実用にならないとはいっても、機能がなくてはだめ。なぜならこれはあくまでも、道具でなくてはいけないからだ。

三、**アナーキーでないといけない**
珍道具は、なにものにも束縛されない、自由なものでなければならない。保守的な発想から珍道具は生まれない。

四、**暮しの道具であること**
たとえば、専門家が使う専用工具であったり、コンピュータテクノロジーを駆使した、一般の人たちが使えない道具は珍道具ではない。あくまでも日用品でなくてはいけない。

五、**市販されていてはいけない**
現在商品化されて売られているものは、すべて実用品とみなし、珍道具とは認めない。

六、**ユーモアを目的としてはいけない**
笑いを目的としたものは珍道具として認めない。笑いは、結果としてあとからついてくるものである。

七、**ブラックユーモアはいけない**
プロパガンダとして使ってはいけない。しつこいようだが、あくまでも道具であること。ただし、機能追求の結果、ブラックにたどりついてしまった場合はしょうがないものとする。

八、**下ネタはご法度**

これは学会の独断と偏見で決めさせていただいた。あくまでも、紳士淑女の知的遊戯の場として遊んでいただきたい。

九、**金儲けは厳禁**

特許申請予定品は、特許庁特許許可局許可局区内へどうぞ。ただし、どうしても商品化したい人には相談に応じる。

十、**インターナショナルであること**

早い話、理屈がいらず、知識もいらず、説明不要のもの。老若男女、職業、国籍を問わずだれもがおもしろがれるもの。

一九九二年一月一日

日本珍道具学会
会長　川上賢司

仰天 珍道具事典　PART 2

1992年1月13日　第一版 第一刷発行
1992年3月6日　第二版第五刷発行

日本珍道具学会 編

発行者　斎藤　駿
発行所　株式会社カタログハウス
東京都中野区中央4-54-11
郵便番号　164-10
電話　03(3319)9211
振替口座　東京1-655403
印刷所　凸版印刷株式会社

乱丁、落丁はお取りかえいたします。

ISBN4-905943-02-7